

(9) 湖沼等閉鎖性水域の状況 (環境基準未達成頻度の高い水域)

洞爺湖(湖沼AA-I)

- ・現況：平成28年度にわずかに超過。29年度以降は達成。
- ・原因：旅館等からの事業場排水。
- ・対策：道は特定事業場の監視・指導、休廃止鉱山からの坑廃水の中和処理。関係町村は公共下水道の整備。

サロマ湖(海域A-I)

- ・現況：平成28、29年度は基準値をわずかに超過、30年度以降は達成したが令和2年度以降は再度超過。
- ・原因：湖底の栄養塩の影響、流域からの栄養塩の流入、藻類の増殖。
- ・対策：常時監視を継続。サロマ湖養殖漁協等関係団体による取組継続。

網走湖(湖沼A-IV)

- ・現況：環境基準の未達成が続いている。
- ・原因：畑地や泥炭地からの流出水。高濃度の栄養塩を蓄積している下層部の影響。逆流する海水の影響。
- ・対策：関係機関による「網走湖の環境保全に係る基本方針」に基づき、生活排水対策、畜産排水対策、湖水の浄化対策(底泥浚渫、水草刈り、流入河川のれき間浄化施設設置、微生物浄化試験等)を実施。

大沼(湖沼A-III)

- ・現況：環境基準の未達成が続いている。
 - ・原因：家畜排せつ物、生活排水等の影響。
 - ・対策：道は平成7年に重点対策湖沼に指定。特定事業場の監視・指導、下水道、堆肥舎などの整備。
- 七飯町他関係団体で構成する「大沼環境保全対策協議会」において対策推進。流入河川での浄化池や沈砂池設置等。
- 道では平成29～令和元年度に環境基準未達成原因究明調査を実施。



屈斜路湖(湖沼AA-I)

- ・現況：平成10年度以降、環境基準の未達成が続いている。
- ・原因：周辺や湖底からの温泉の湧出により、かつてはpH5未満の酸性湖で、湖内の内部生産が抑えられていたが、昭和60年の地震による地殻変動で、湖内のpHが上昇。中性湖になったことから、内部生産が盛んになり水質悪化。
- ・対策：常時監視を継続。

風連湖(海域A)

- ・現況：基準超過が続いており、平成29年度は達成したが、30年度は超過。令和元年、2年度は達成したが3年度は未達成。
- ・原因：家畜排せつ物等に起因する負荷。湿原等の自然由来。
- ・対策：農協及び漁協他関係者による「風連湖流入河川連絡協議会」で、水質改善に向け植樹等に取組んだ。
- ・参考：国の通常の基準値Aが2mg/Lであるが、泥炭地由来のフミン質の影響を考慮し、道ではCODの基準値は5mg/Lと定めている。

春採湖(湖沼B-V)

- ・現況：環境基準は未達成だが、水質は下水道整備により30年前に比べ大幅に改善され、現在も徐々に改善が進んでいる。
 - ・原因：藻類の増殖や土壌等の自然由来。
 - ・対策：道は平成2年に重点対策湖沼に指定。釧路市他関係団体で構成する「春採湖環境対策協議会」で対策推進。下水道整備、底泥浚渫、潮止堰の設置。「清流ルネッサンス21」に基づき水質改善事業の実施。
- 道では令和元～2年度に環境基準未達成原因究明調査を実施。

阿寒湖(湖沼AA-III)

- ・現況：環境基準の未達成が続いているが、ほぼ全域で下水道が整備されるなど対策が進んでいる。
 - ・原因：旅館等の事業場排水や生活排水、自然由来負荷等。
 - ・対策：下水道整備等、常時監視を継続。
- 道では令和4年度に環境基準未達成原因究明調査を実施中。

厚岸湖(海域B)

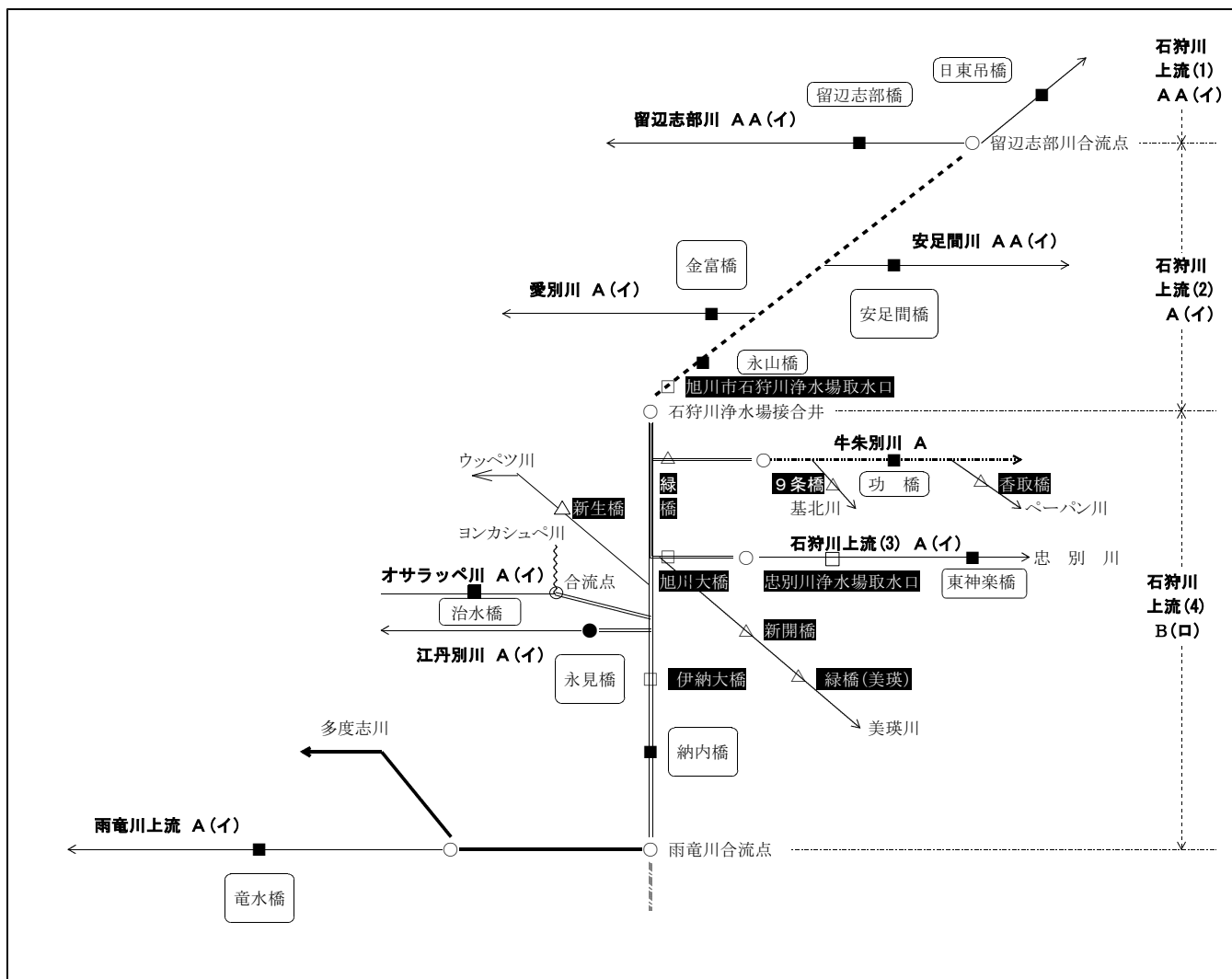
- ・現況：環境基準の未達成が続いている。
- ・原因：流入河川からの自然由来のフミン質、家畜排せつ物、湖奥部の水流停滞や内部生産の影響。
- ・対策：厚岸町や「別寒辺牛川・ホムカイ川流域環境保全協議会」による流域の水質調査、家畜排せつ物の適正管理の普及啓発等の実施。

(10) 測定地点図 (令和4年(2022年)12月現在)

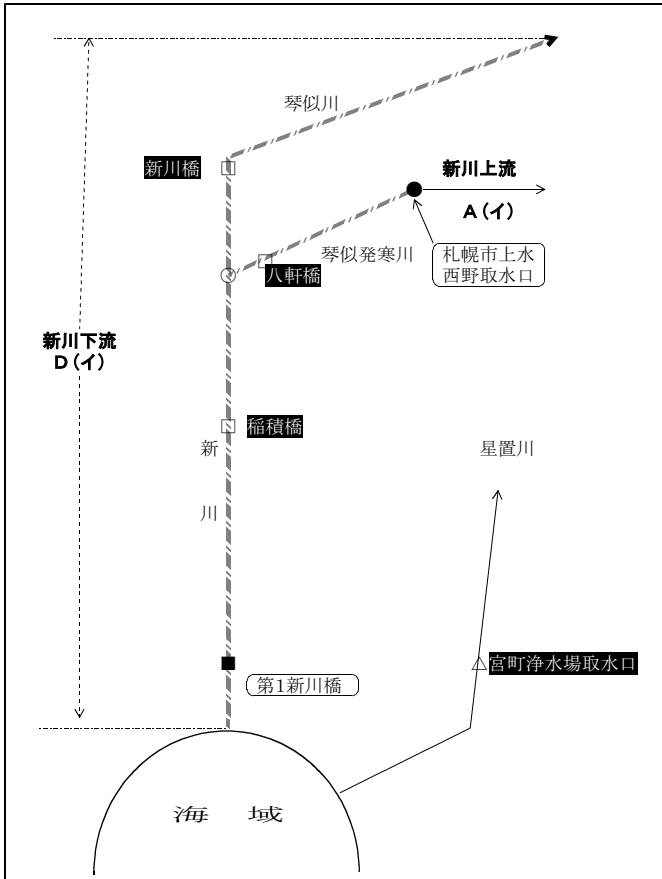
< 凡 例 >

- : 水域類型の区分点
- : 水域類型の区分点で環境基準点
- : 環境基準点
- : 補助点
- △ : その他地点
- (白抜き) : 地点名 (環境基準点)
- (白抜き) : 地点名 (補助点、その他地点)

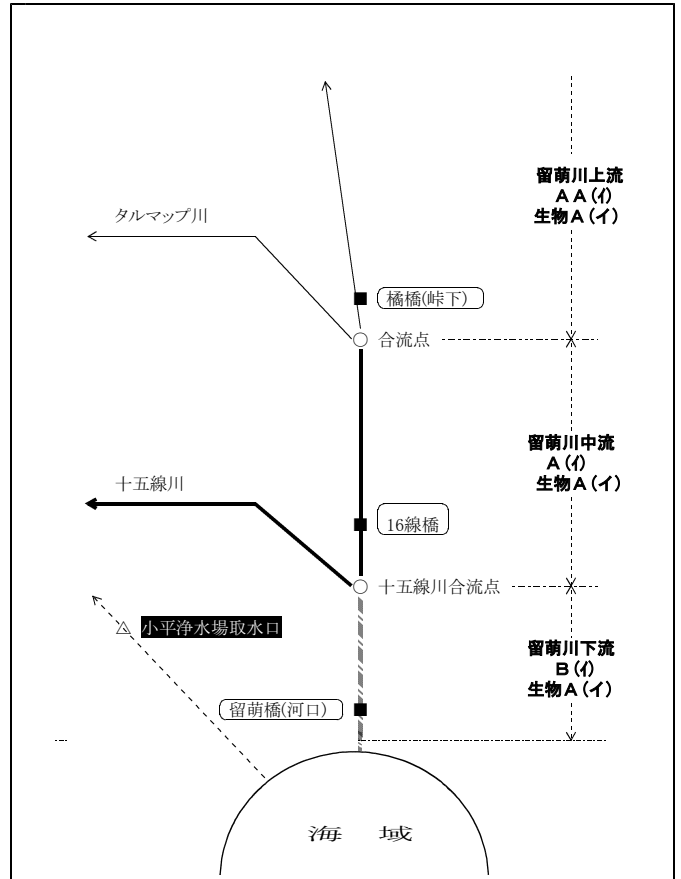
石 狩 川 上 流 水 域 測 定 地 点 図



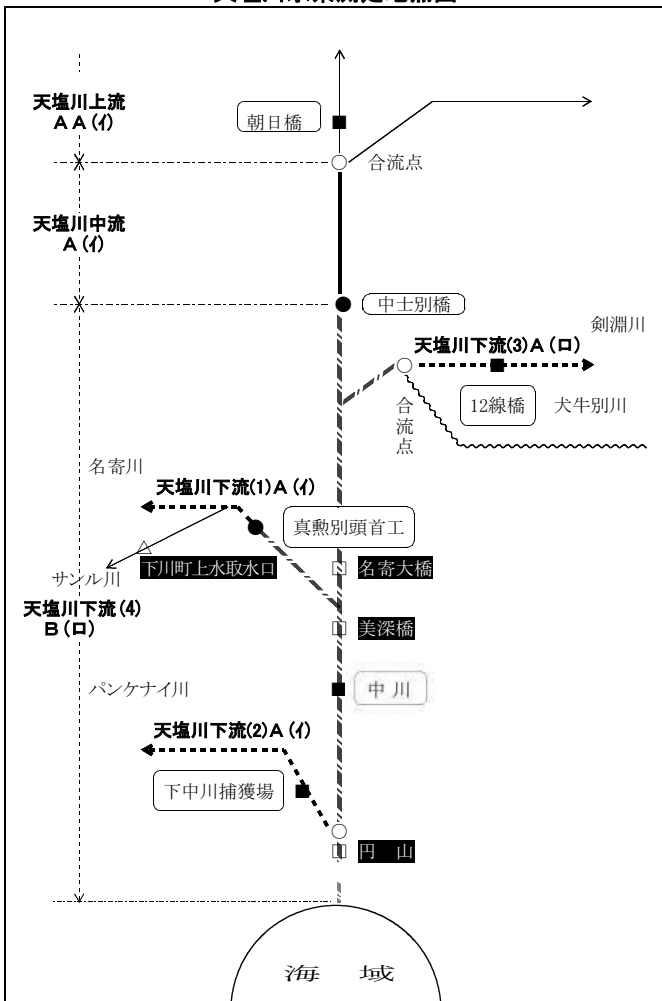
新川・星置川水系測定地点図



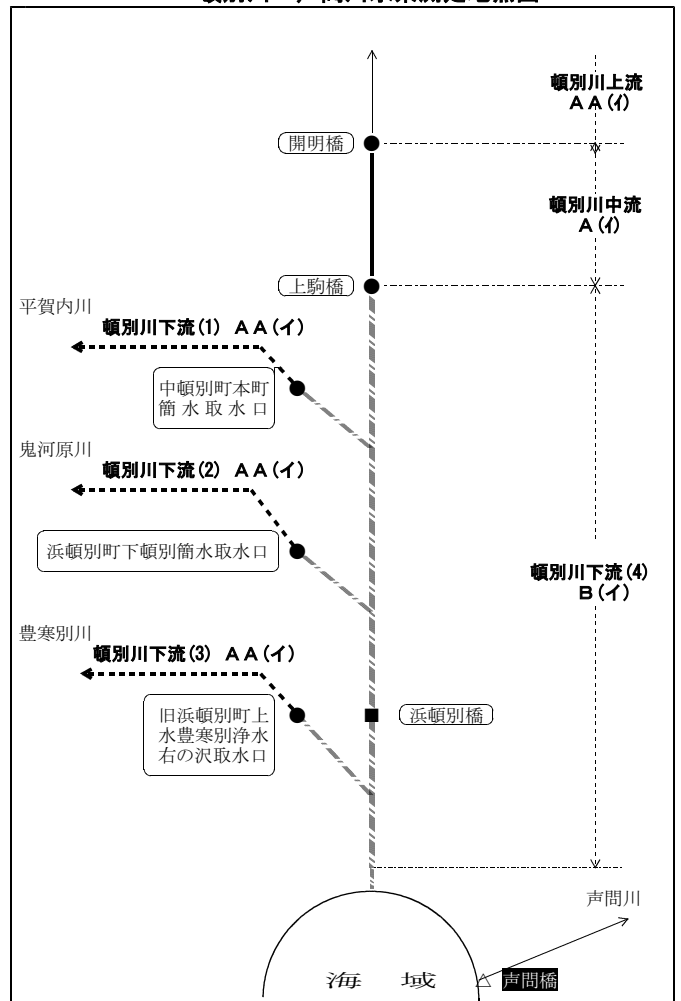
留萌川水系測定地点図



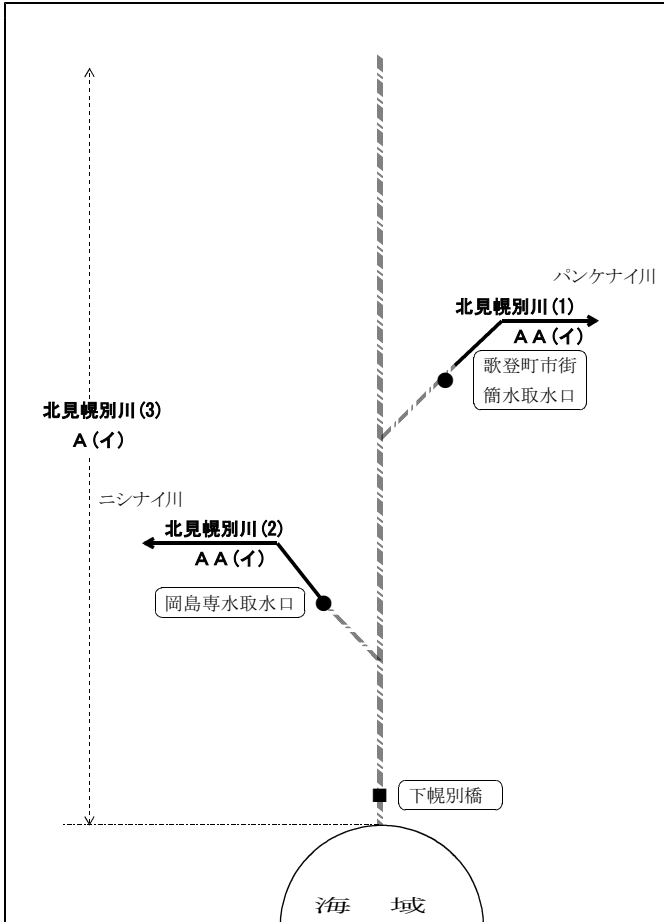
天塩川水系測定地点図



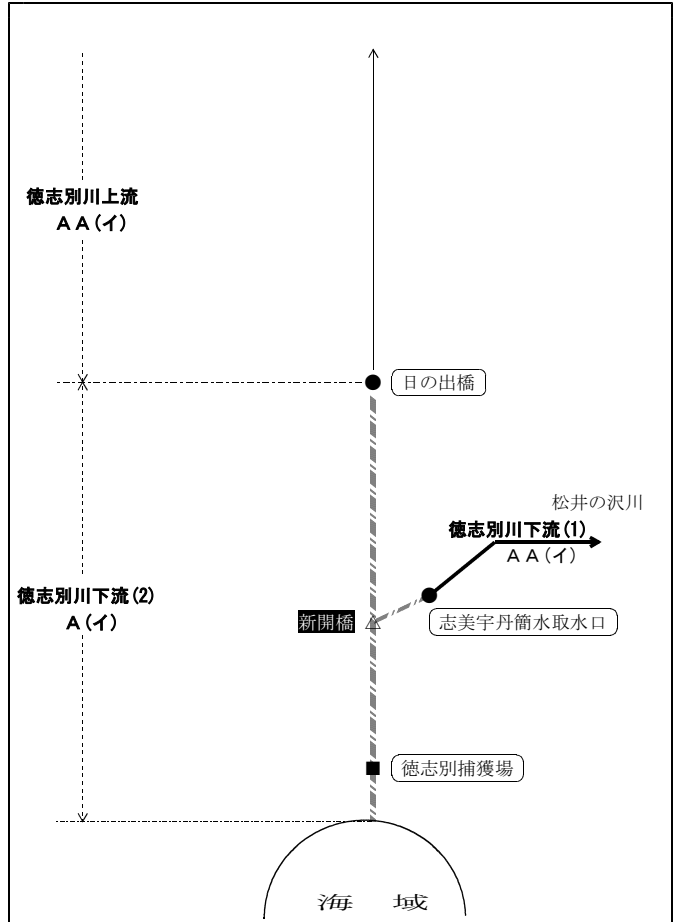
頓別川・声問川水系測定地点図



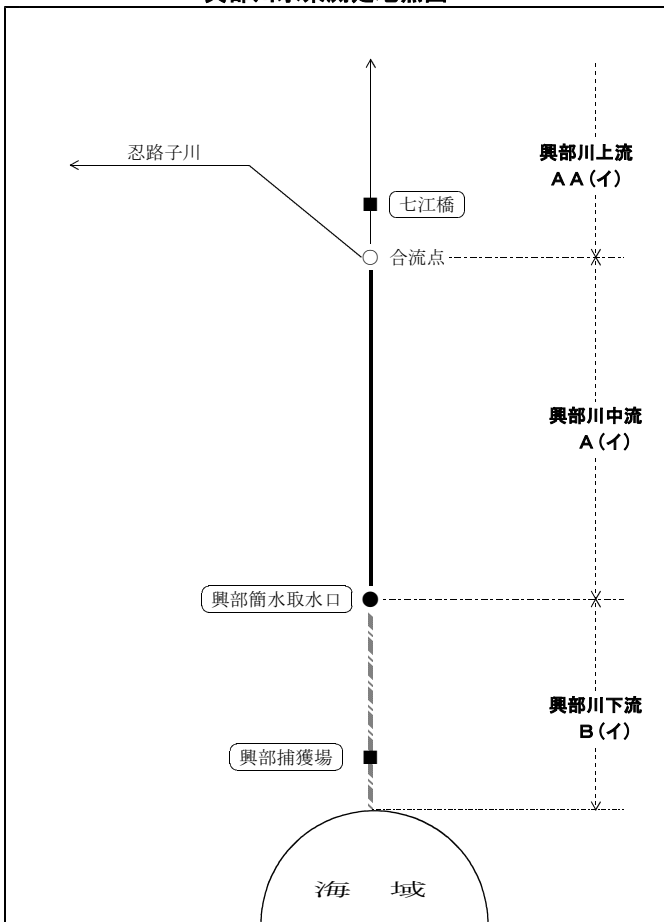
北見幌別川水系測定地点図



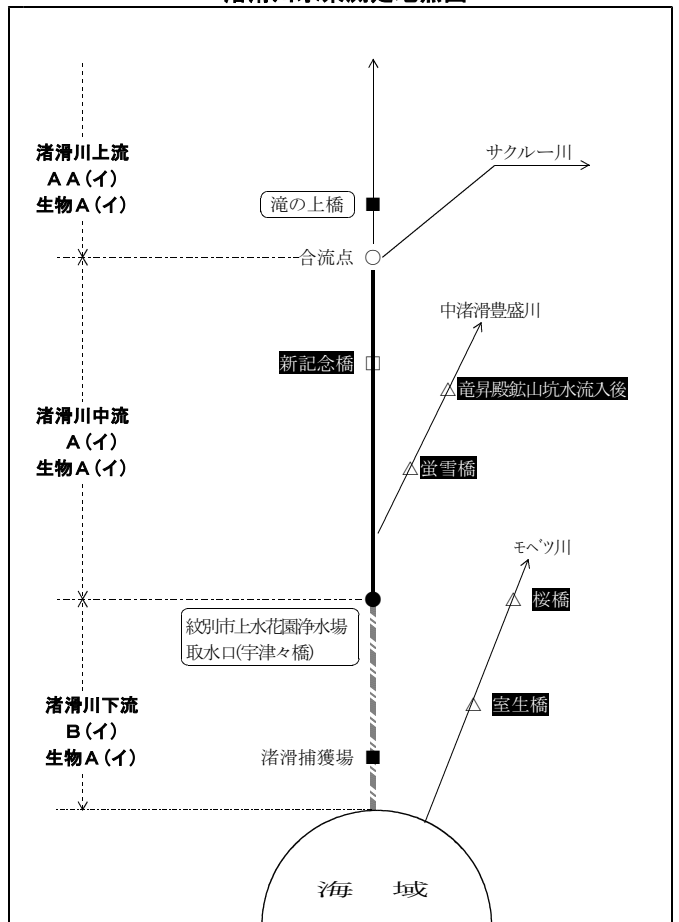
徳志別川水系測定地点図



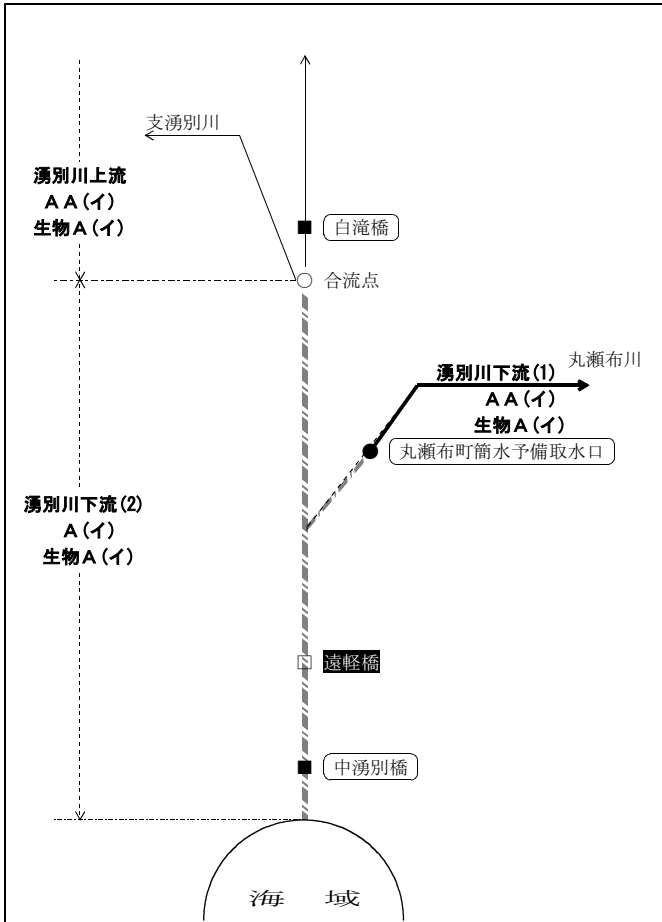
興部川水系測定地点図



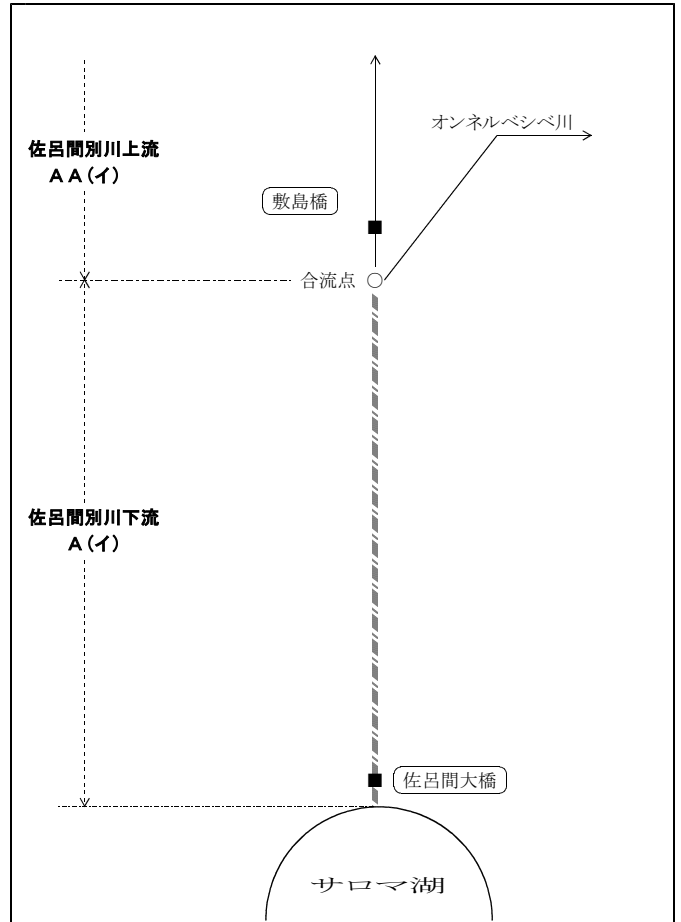
渚滑川水系測定地点図



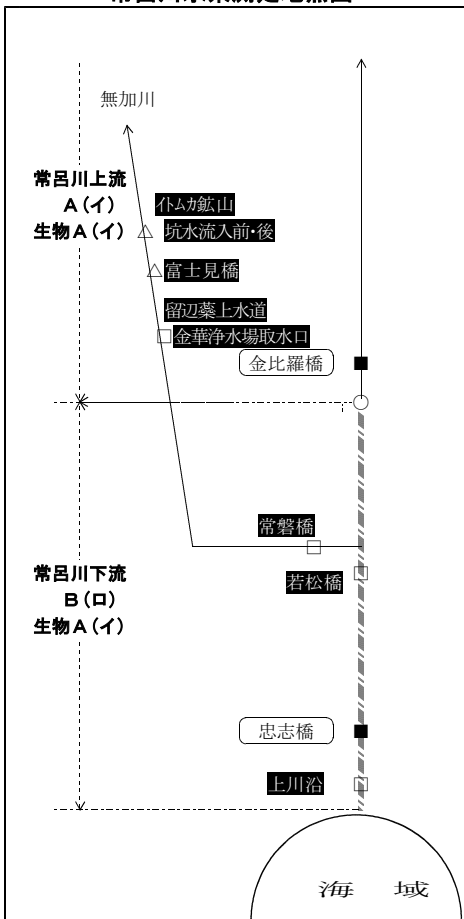
湧別川水系測定地点図



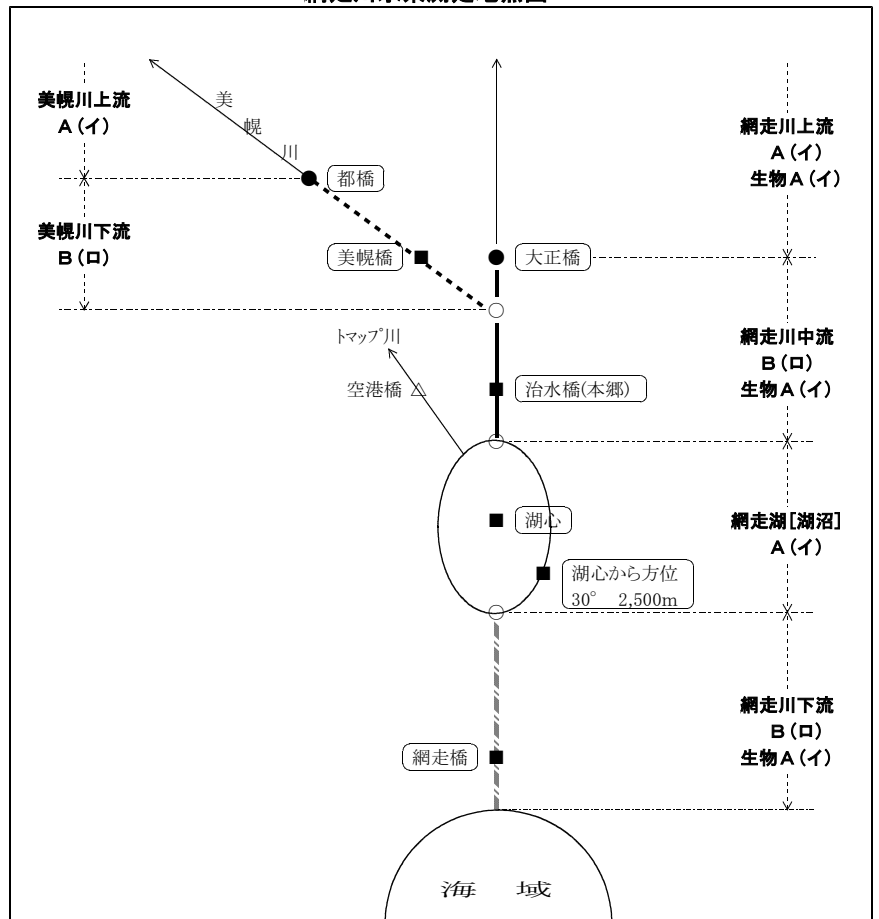
佐呂間別川水系測定地点図



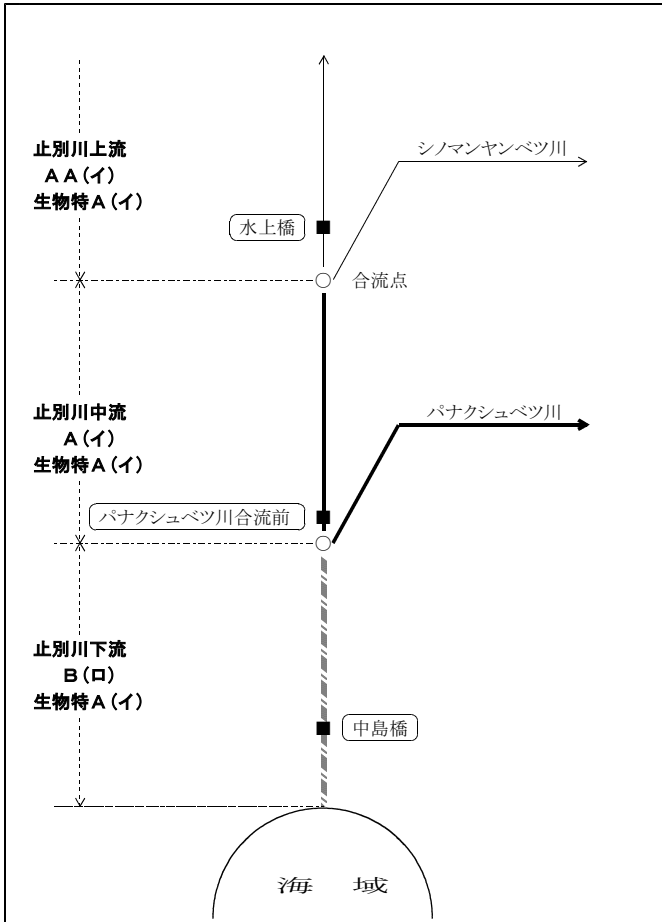
常呂川水系測定地点図



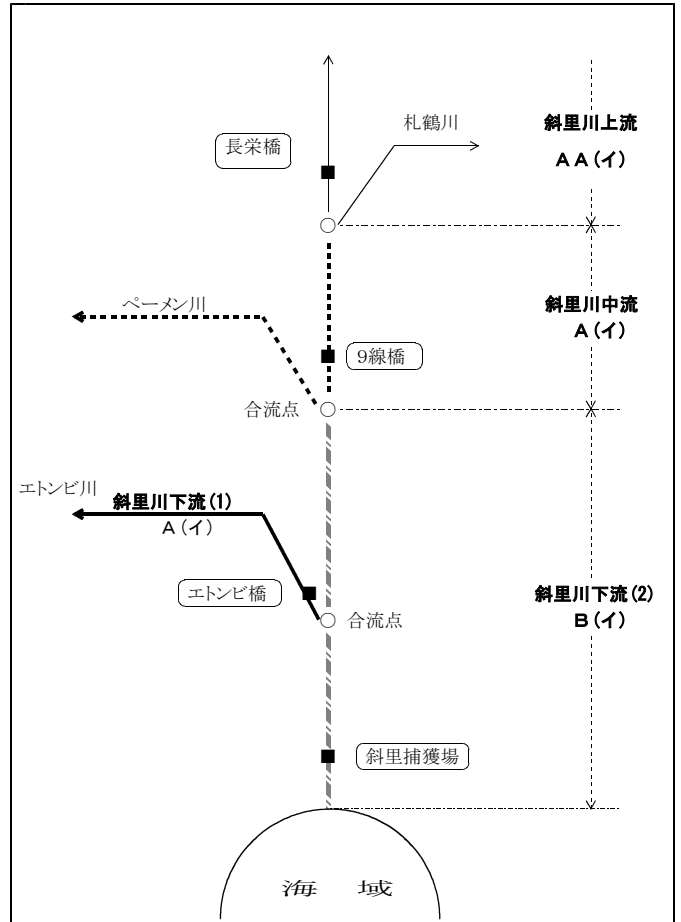
網走川水系測定地点図



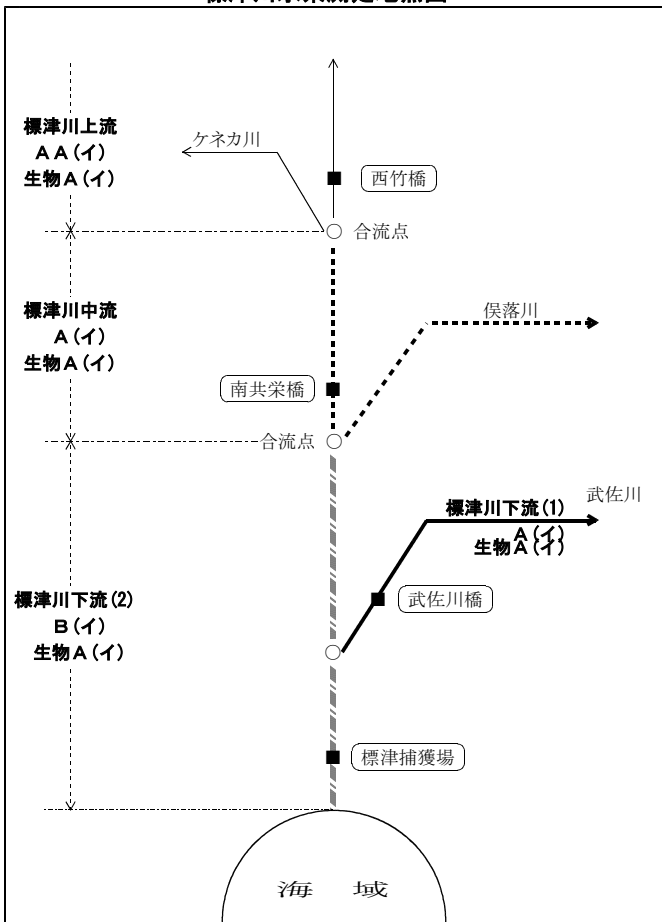
止別川水系測定地点図



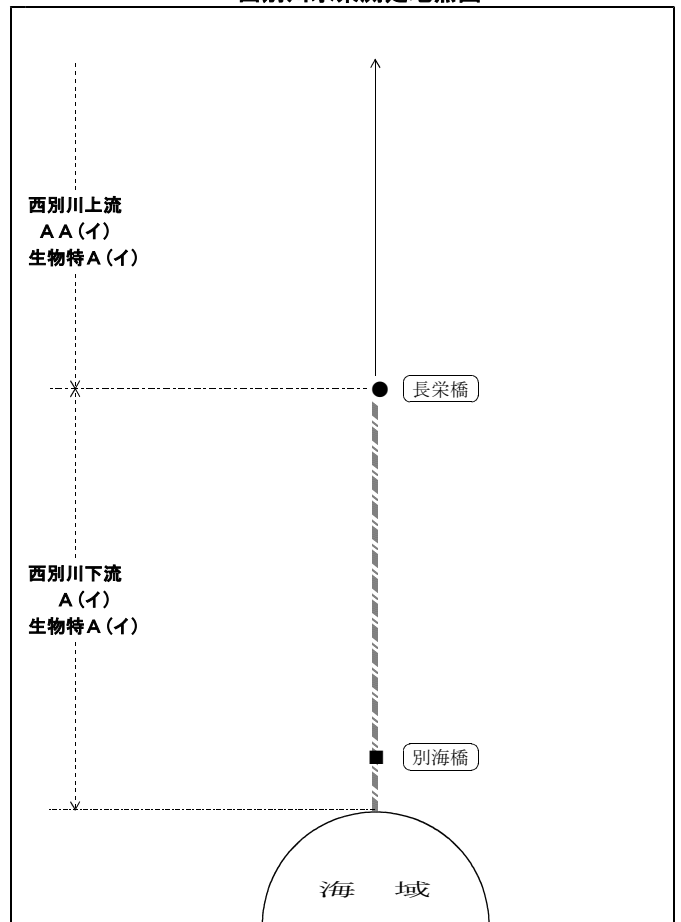
斜里川水系測定地点図



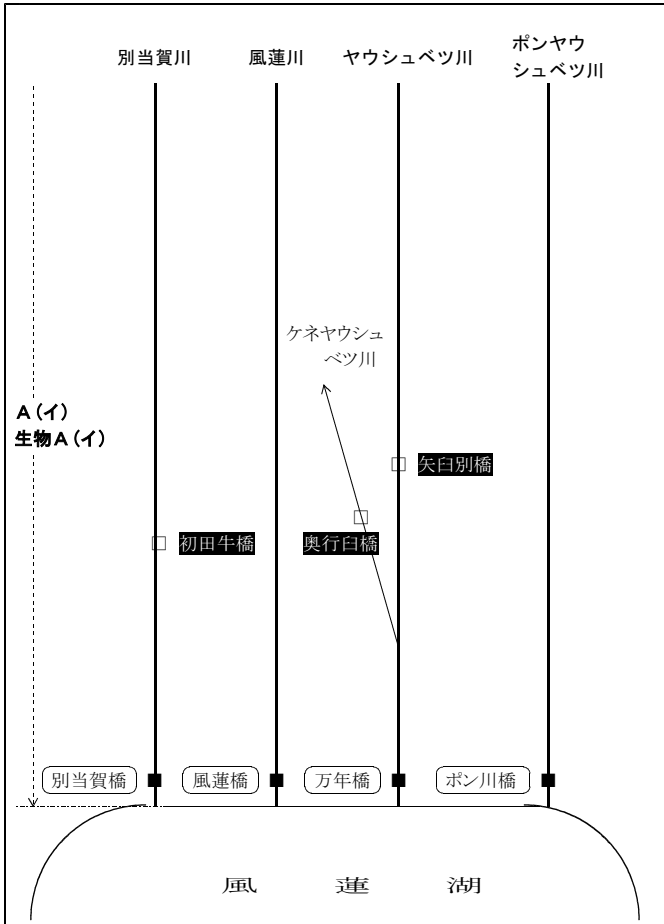
標津川水系測定地点図



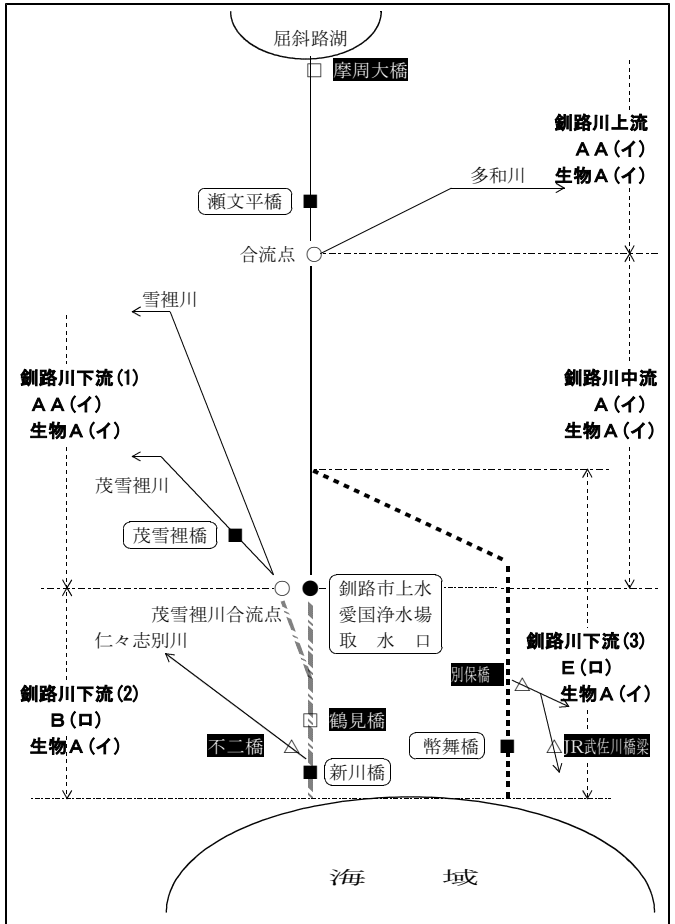
西別川水系測定地点図



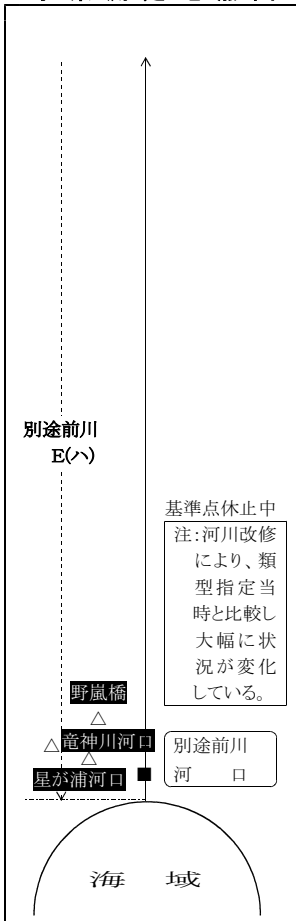
風蓮川水系測定地点図



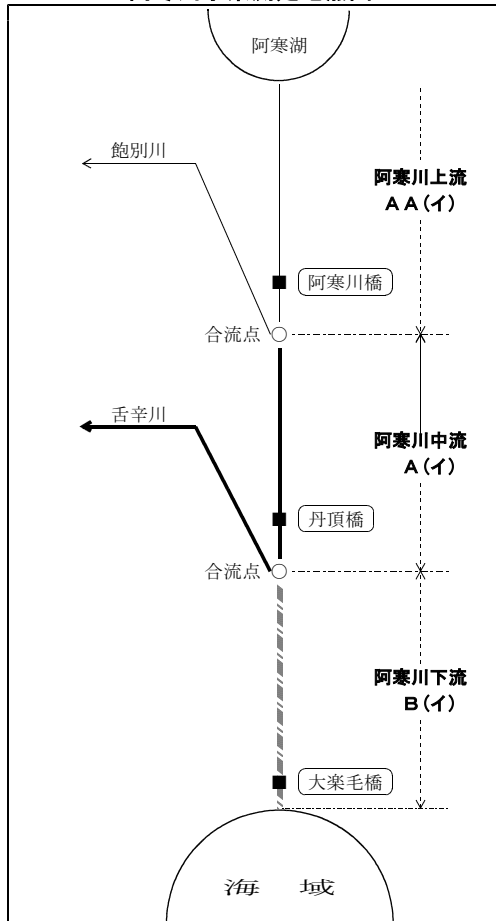
釧路川水系測定地点図



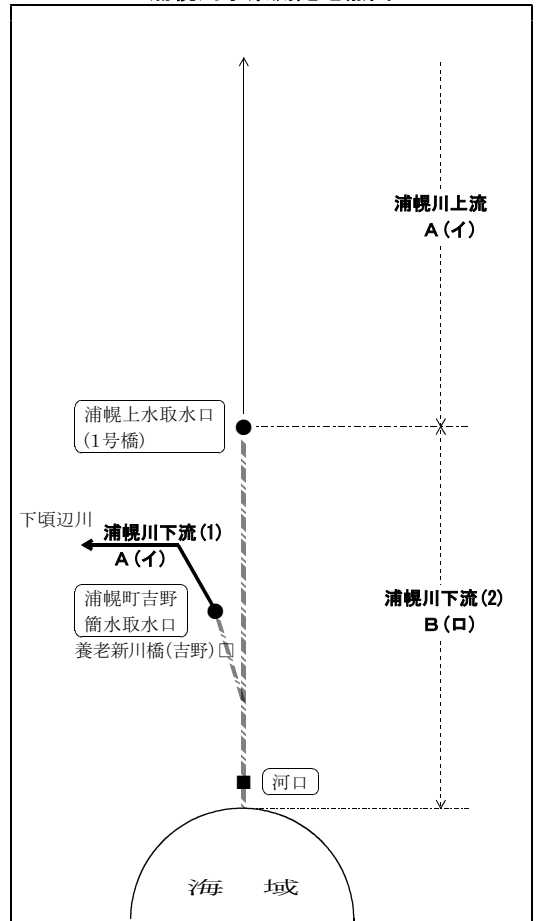
別途前川 (星が浦川)
水系測定地点図



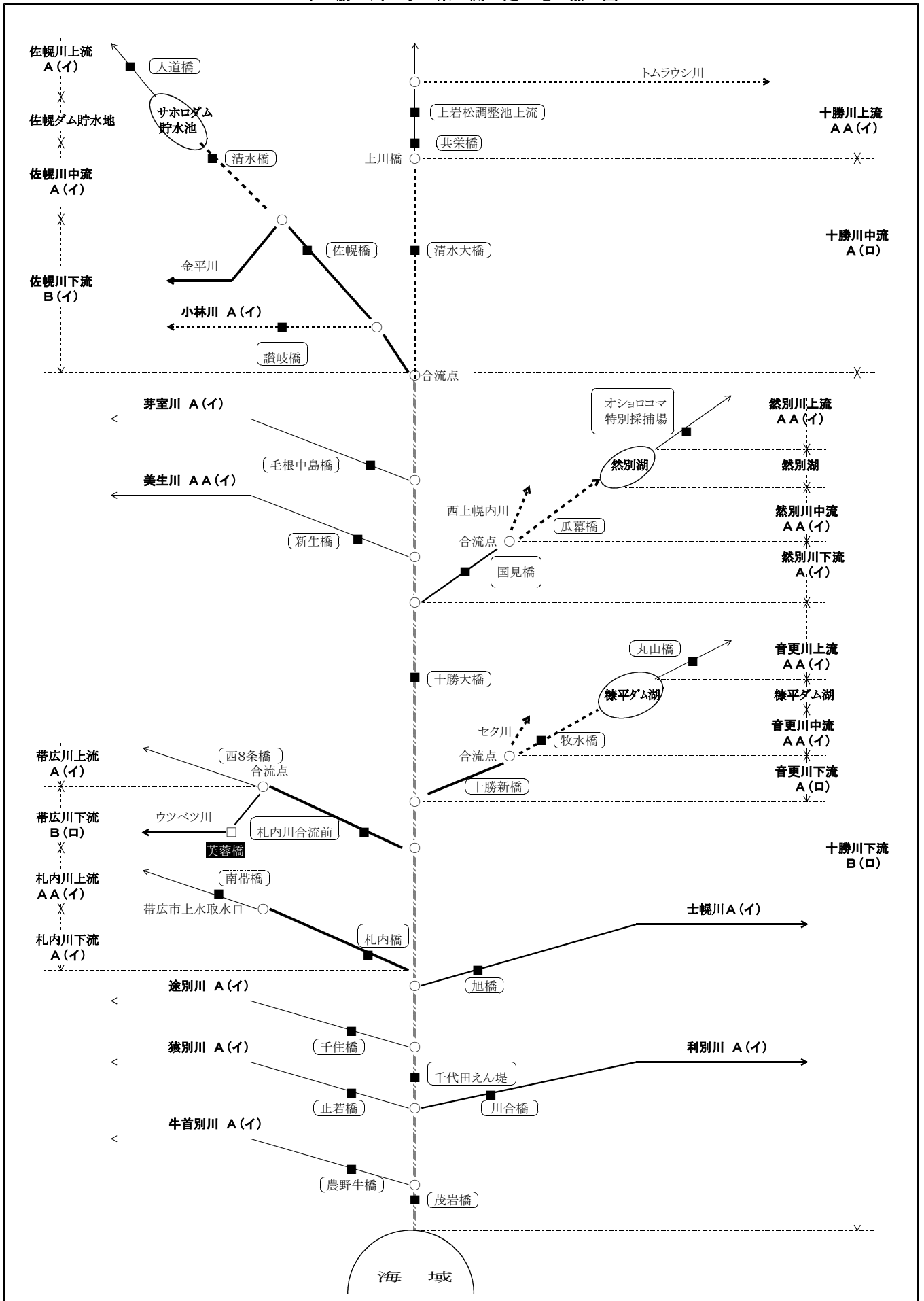
阿寒川水系測定地点図



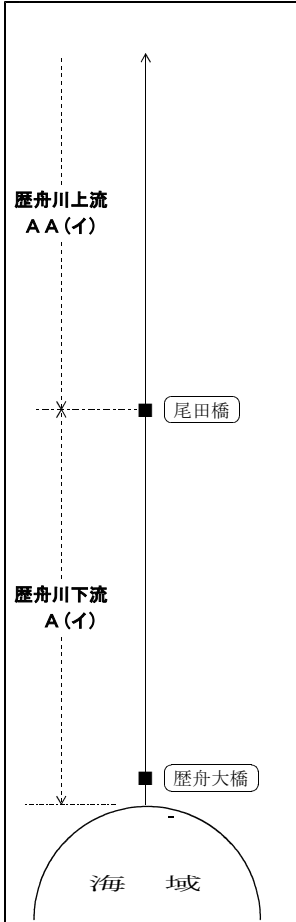
浦幌川水系測定地点図



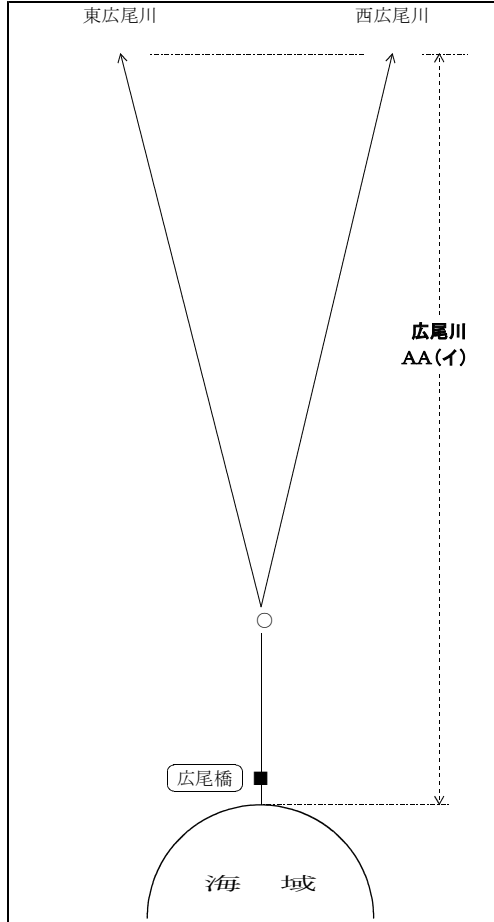
十勝川水系測定地点図



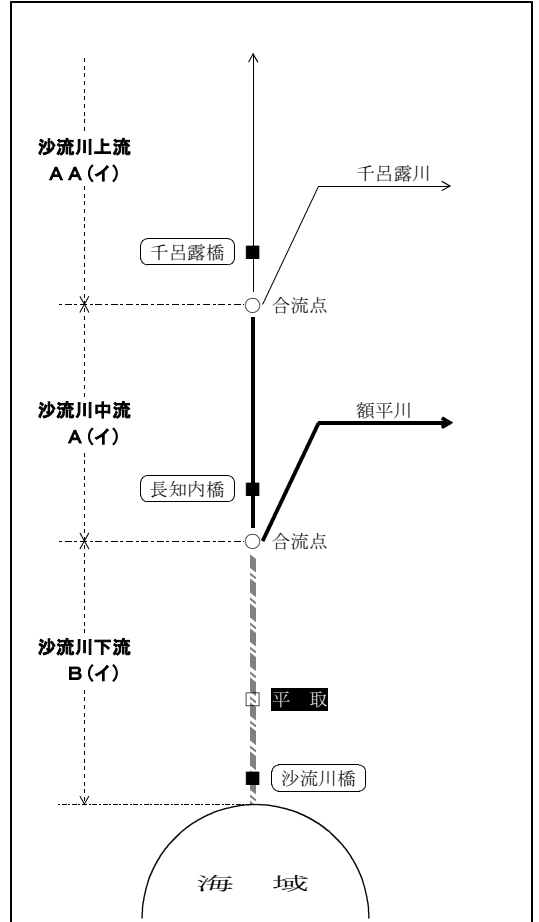
歴舟川水系測定地点図



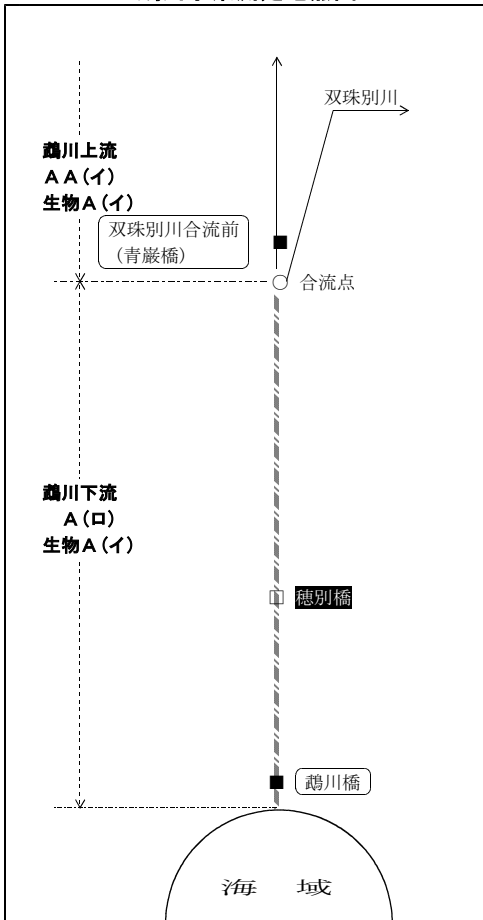
広尾川水系測定地点図



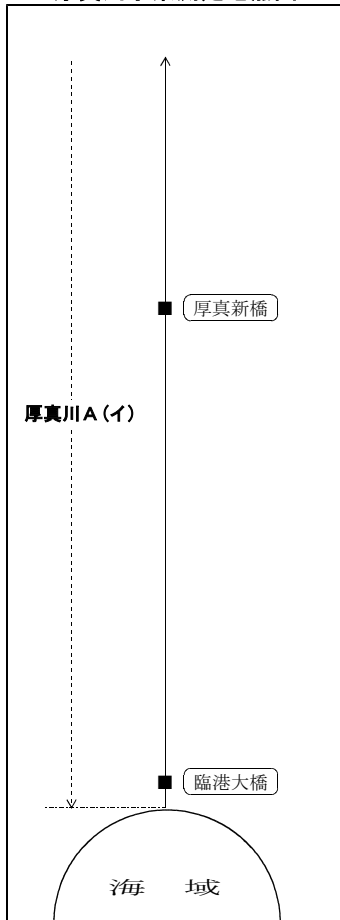
沙流川水系測定地点図



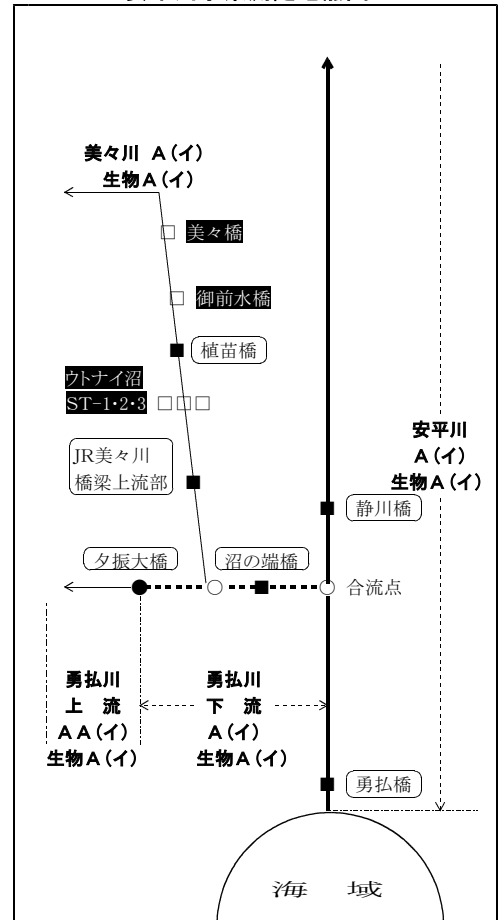
鷗川水系測定地点図



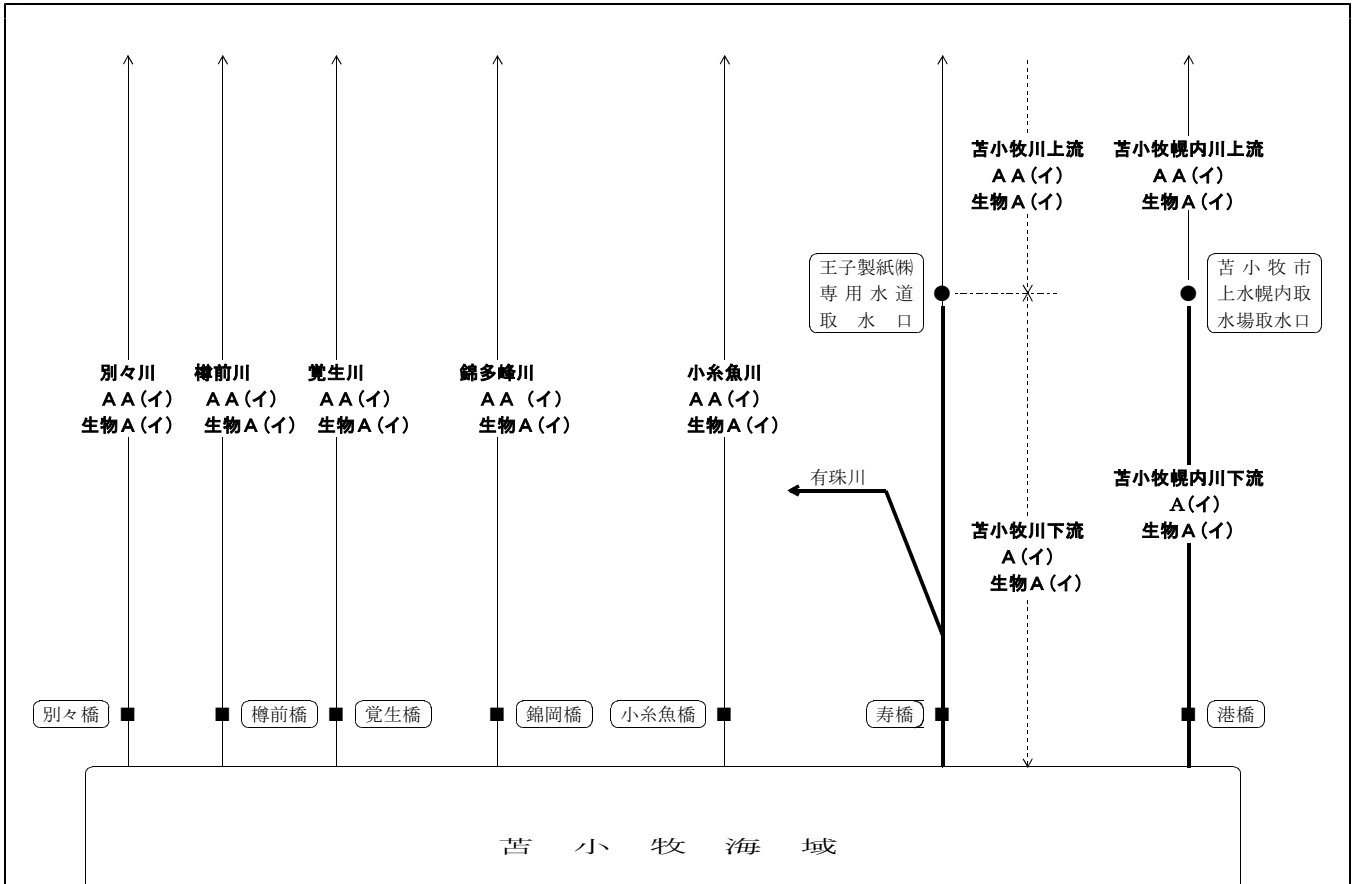
厚真川水系測定地点図



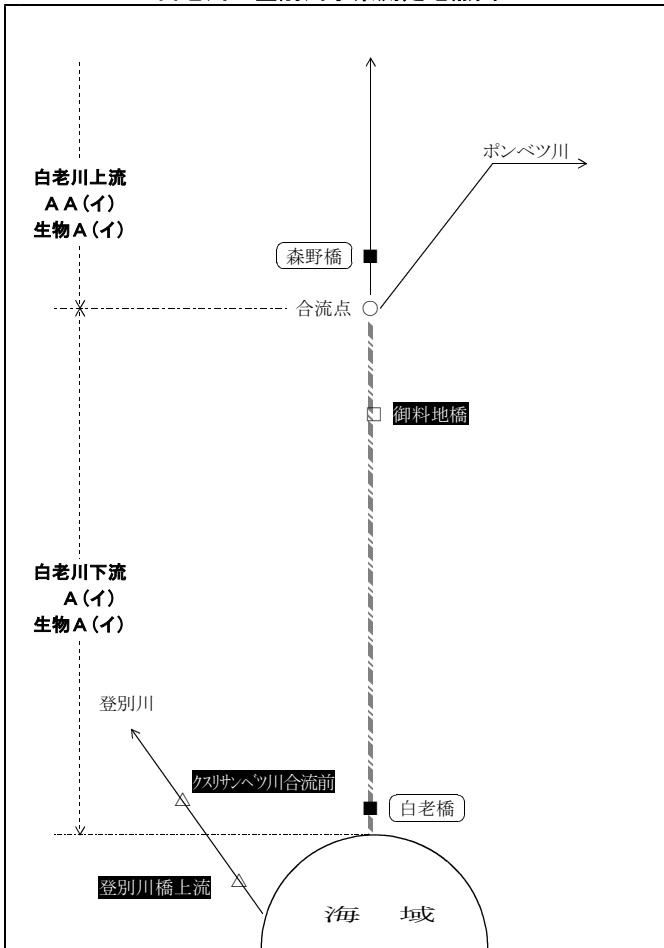
安平川水系測定地点図



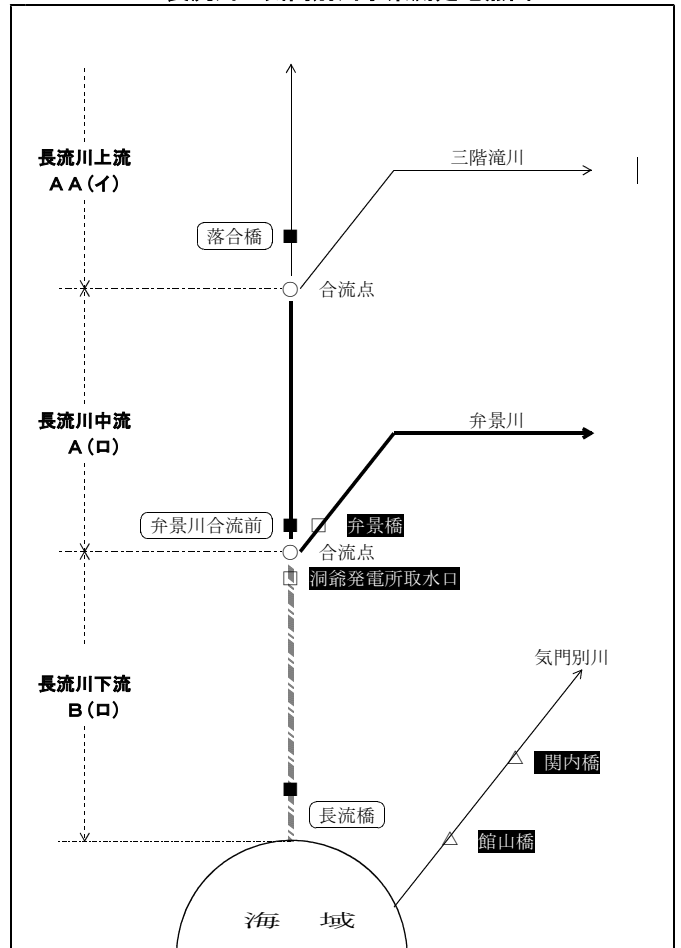
苦小牧幌内川・苦小牧川・小糸魚川・錦多峰川・覚生川・樽前川・別々川水系測定地点図



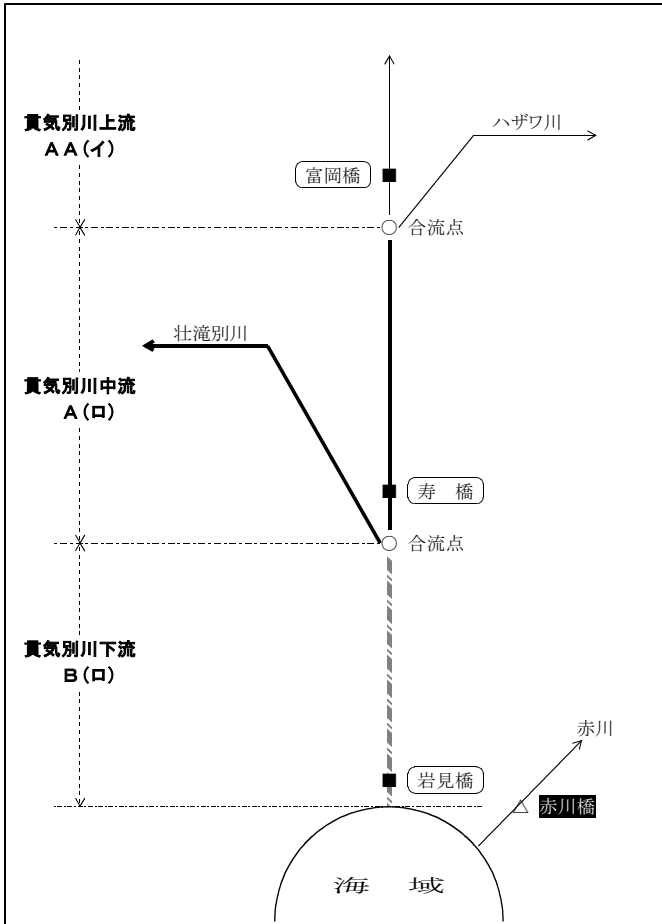
白老川・登別川水系測定地点図



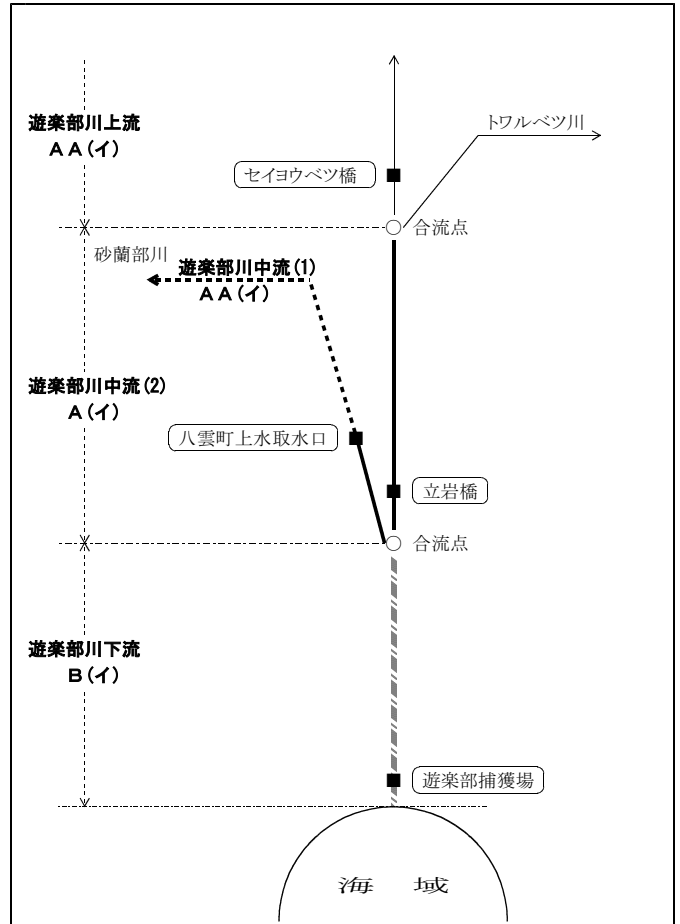
長流川・気門別川水系測定地点図



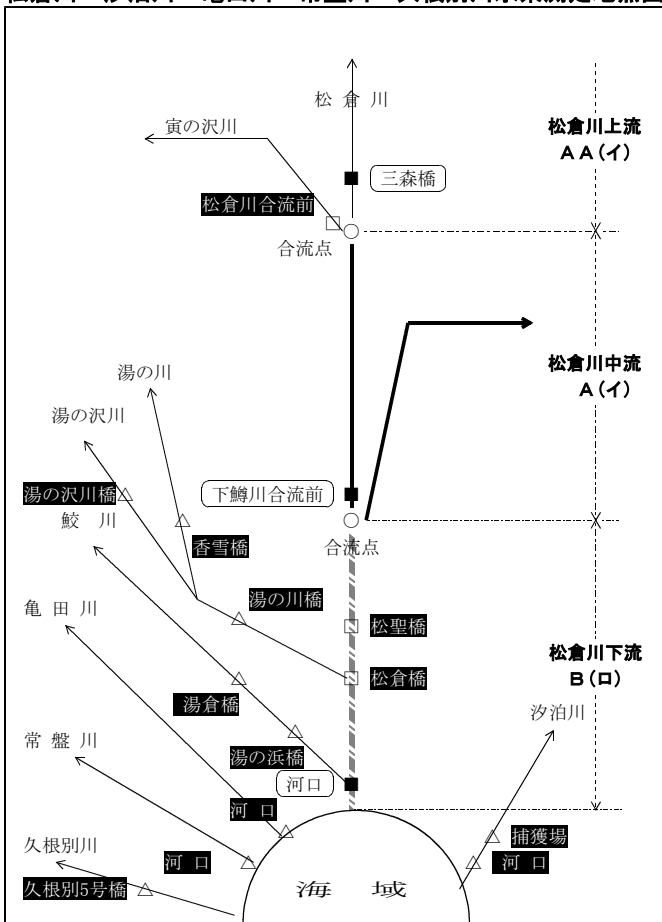
貫気別川・赤川水系測定地点図



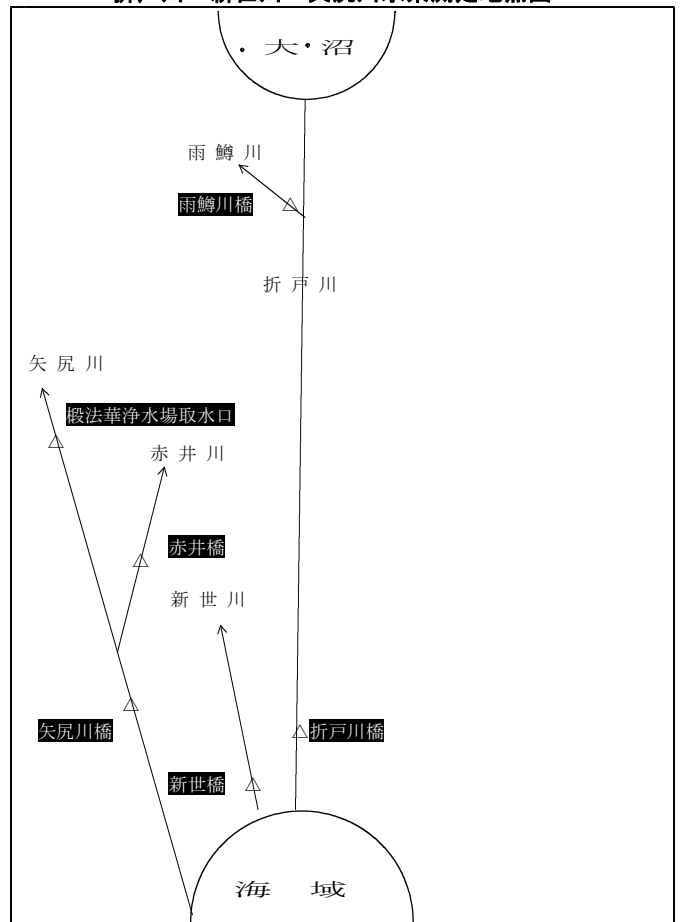
遊楽部川水系測定地点図



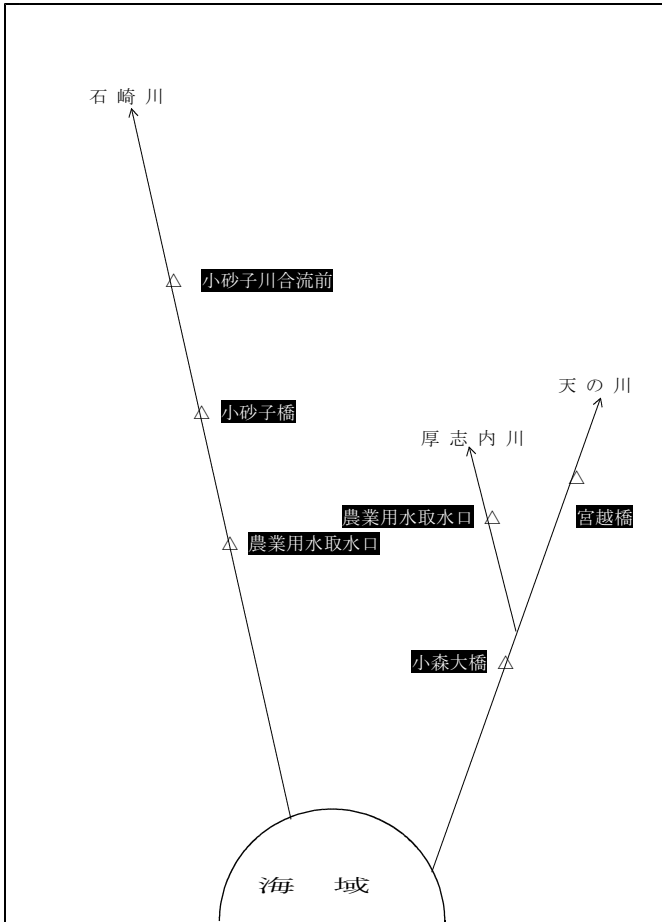
松倉川・汐泊川・亀田川・常盤川・久根別川水系測定地点図



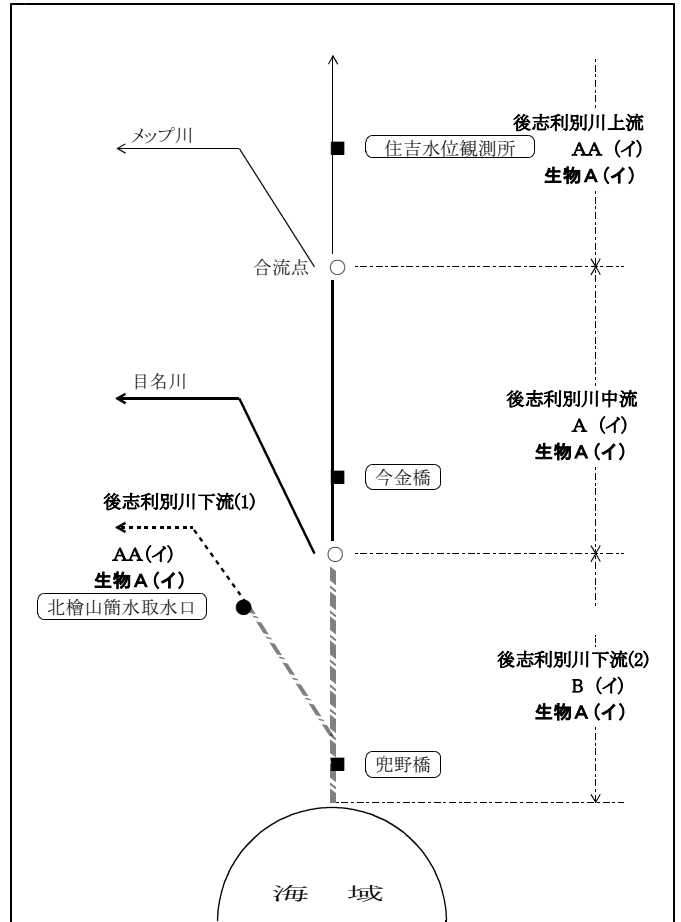
折戸川・新世川・矢尻川水系測定地点図



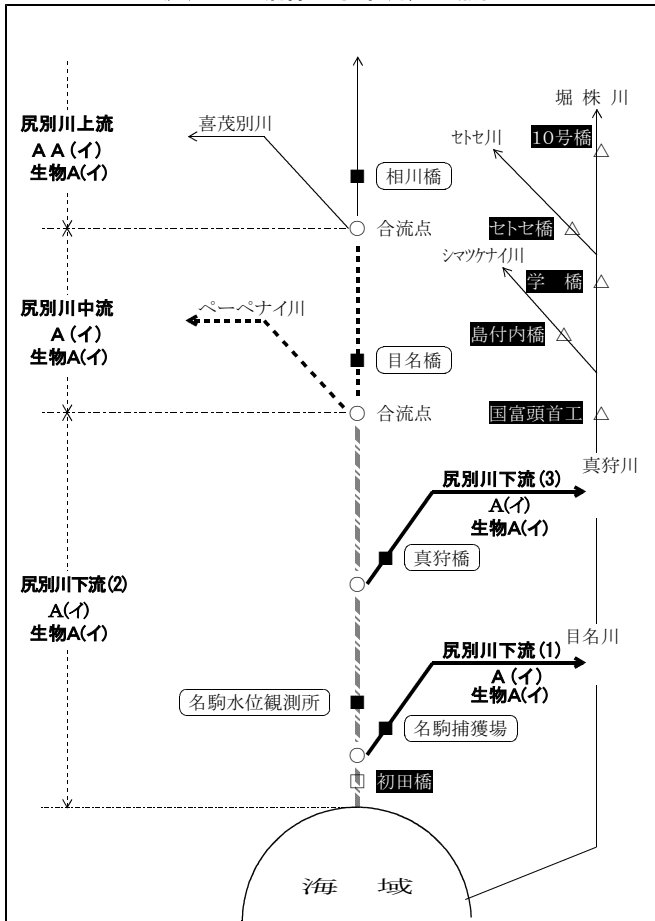
石崎川・天の川水系測定地点図



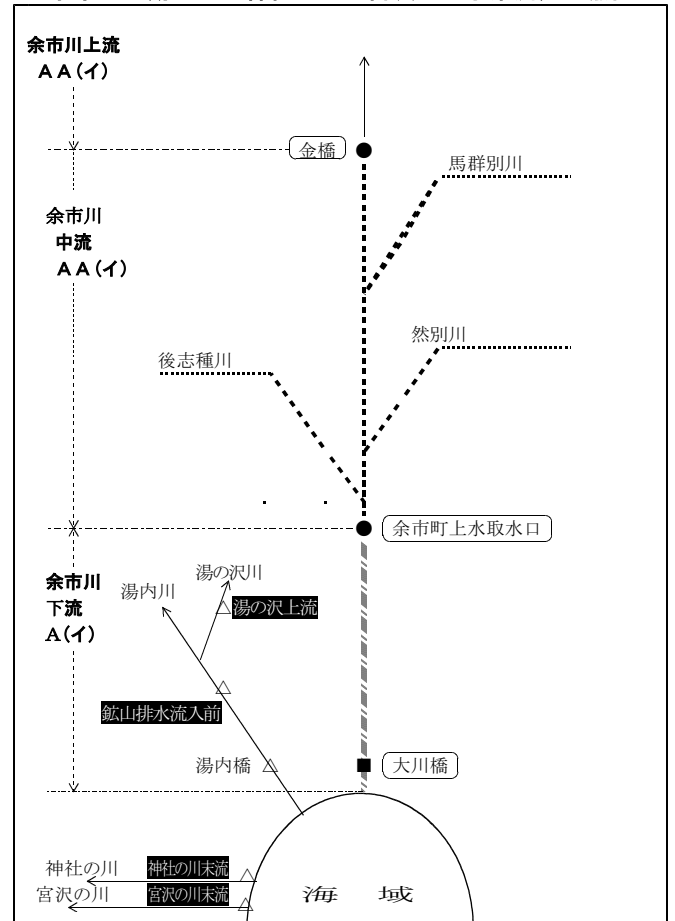
後志利別川水系測定地点図



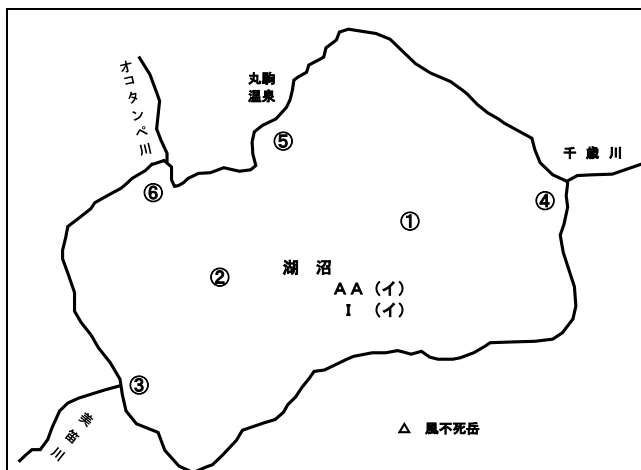
尻別川・堀株川水系測定地点図



余市川・湯内川・神社の川・宮沢の川水系測定地点図

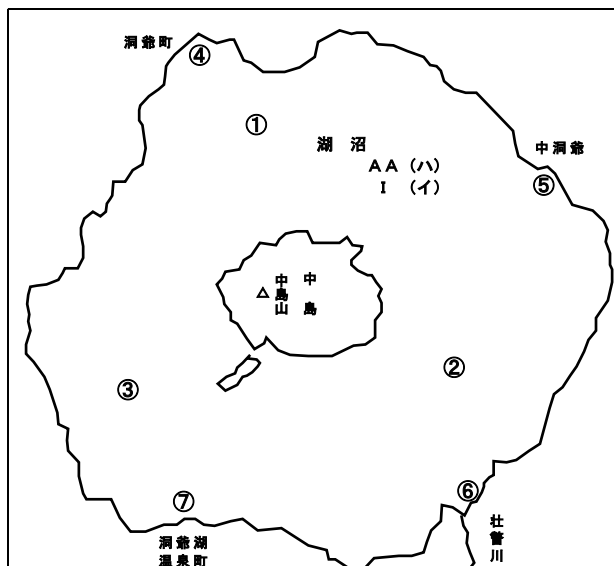


支笏湖



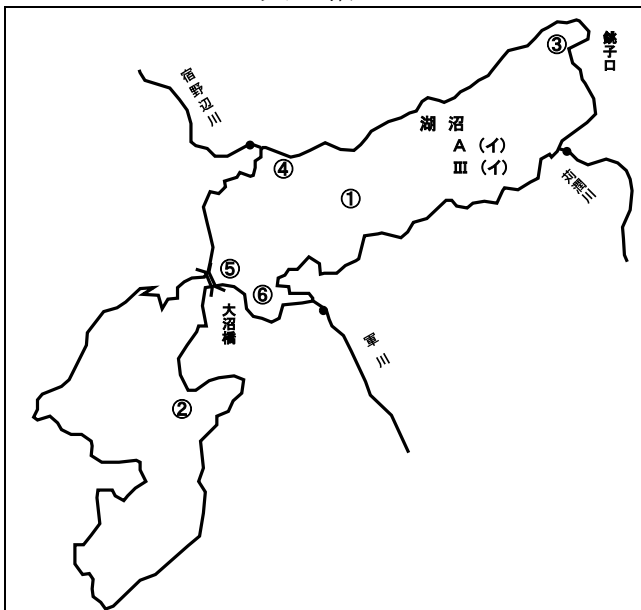
番号	位	置	番号	位	置
①	N 42° 45' 59"		④	N 42° 46' 17"	
基準点	E141° 21' 29"			E141° 24' 07"	
②	N 42° 44' 31"		⑤	N 42° 46' 47"	
基準点	E141° 18' 03"			E141° 18' 46"	
③	N 42° 43' 42"		⑥	N 42° 46' 09"	
	E141° 16' 06"			E141° 16' 05"	

洞爺湖



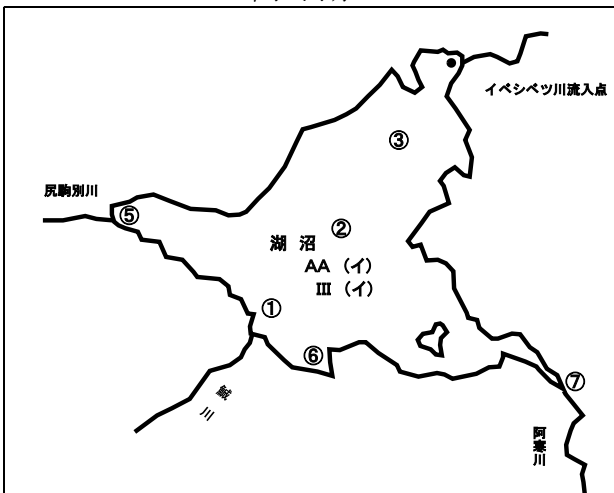
番号	位	置	番号	位	置
①	N 42° 37' 49"		⑤	N 42° 36' 58"	
基準点	E140° 50' 33"			E140° 54' 41"	
②	N 42° 36' 09"		⑥	N 42° 33' 53"	
基準点	E140° 53' 11"			E140° 53' 03"	
③	N 42° 34' 39"		⑦	N 42° 34' 06"	
基準点	E140° 49' 47"			E140° 49' 09"	
④	N 42° 38' 44"				
	E140° 50' 03"				

大沼



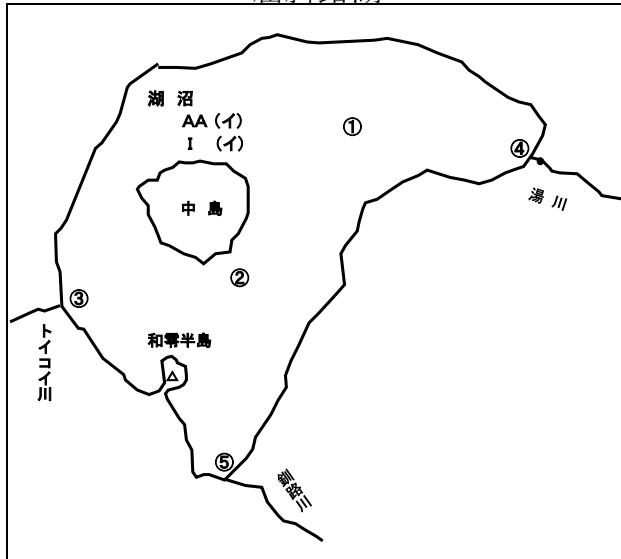
番号	位	置	番号	位	置
①	N 41° 59' 52"		⑥	N 41° 59' 05"	
基準点	E140° 41' 10"			E140° 40' 54"	
②	N 41° 58' 36"		②	N 41° 59' 52"	荻澗川
基準点	E140° 39' 26"		流入点	E140° 42' 35"	
③	N 42° 00' 47"		③	N 41° 59' 05"	軍川
	E140° 42' 43"		流入点	E140° 40' 54"	
④	N 42° 01' 04"		④	N 42° 00' 04"	宿野辺川
	E140° 40' 07"		流入点	E140° 40' 07"	
⑤		月見橋			

阿寒湖



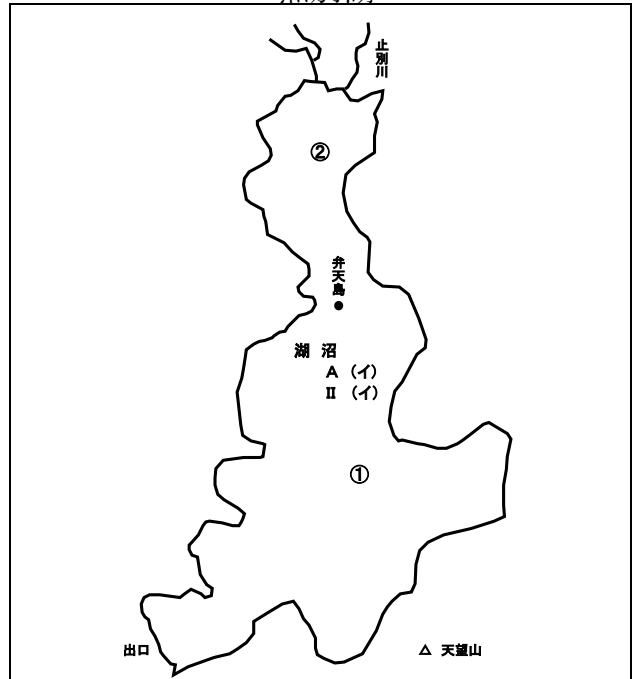
番号	位	置	番号	位	置
①	N 43° 26' 35"		⑤		尻駒内川
基準点	E144° 05' 21"				河口沖100m
②	N 43° 27' 16"		⑥	N 43° 26' 07"	
基準点	E144° 06' 03"			E144° 05' 46"	
③	N 43° 27' 52"		⑦	N 43° 25' 58"	
基準点	E144° 06' 45"			E144° 08' 16"	
イベシベツ川	N 43° 28' 40"				
流入点	E144° 07' 23"				

屈斜路湖



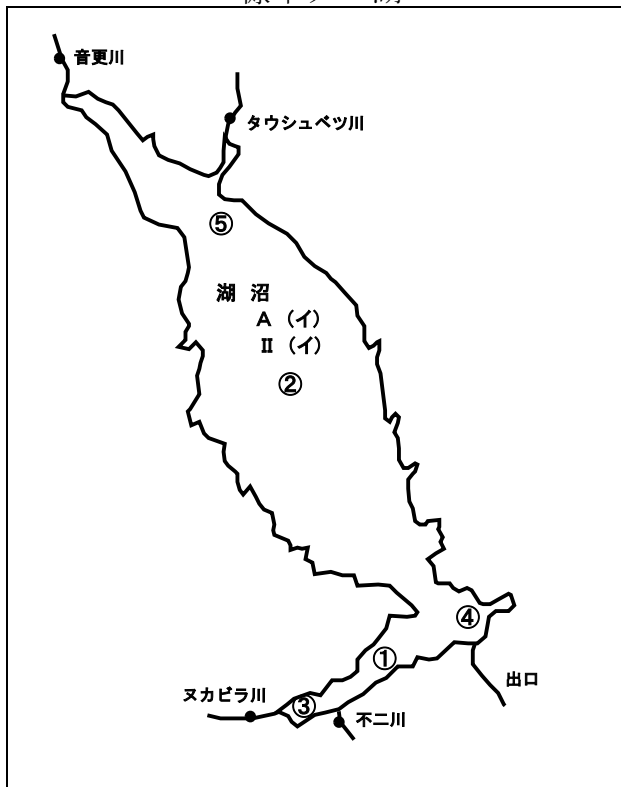
番号	位 置	番号	位 置
① 基準点	N 43° 38' 43" E144° 20' 36"	④	N 43° 39' 13" E144° 24' 49"
② 基準点	N 43° 36' 06" E144° 19' 16"	⑤	N 43° 33' 39" E144° 20' 20"
③	N 43° 36' 08" E144° 15' 45"	湯川 流入点	N 43° 36' 12" E144° 24' 53"

然別湖



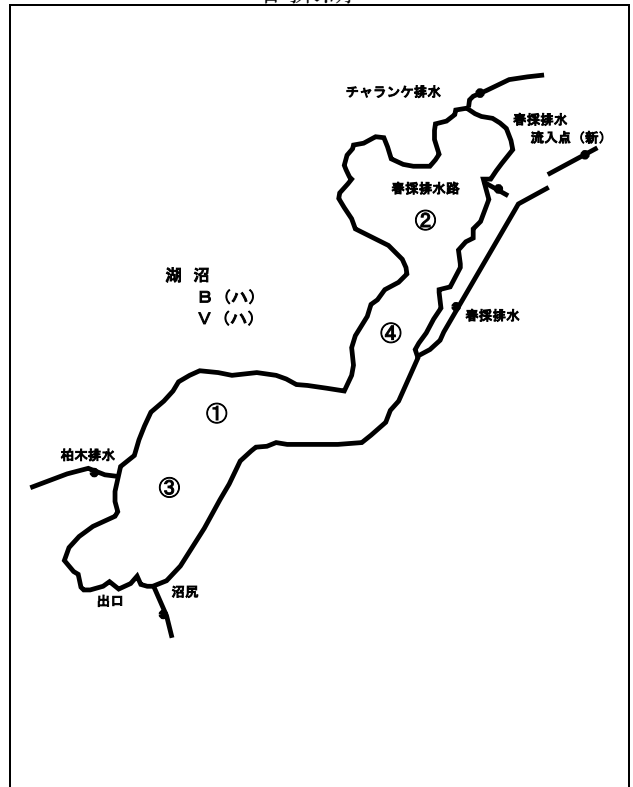
番号	位 置	番号	位 置
① 基準点	N 43° 16' 32" E143° 06' 59"	② 基準点	N 43° 17' 35" E143° 06' 59"

糠平ダム湖



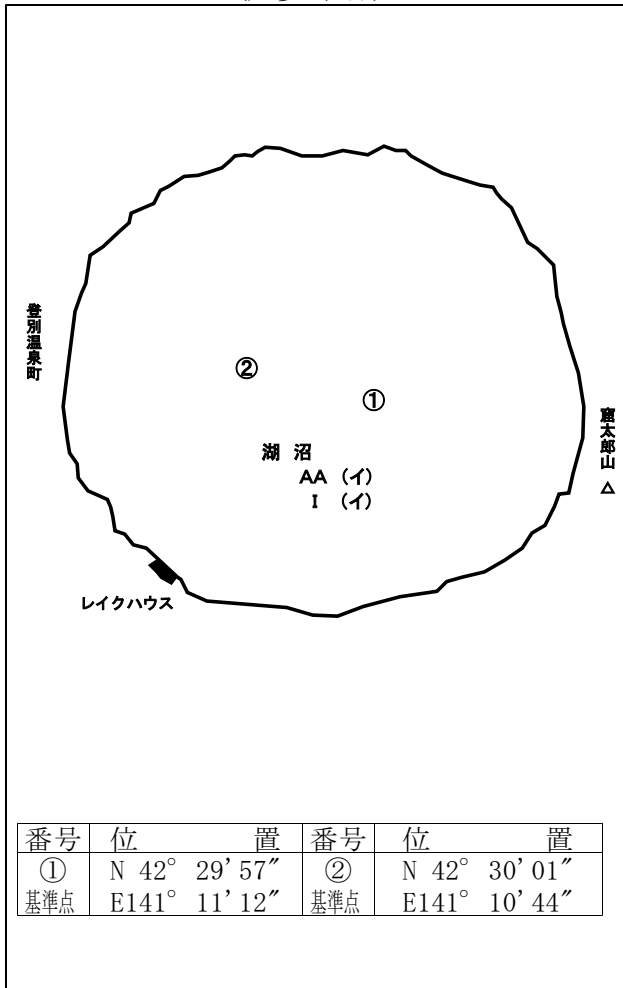
番号	位 置	番号	位 置
① 基準点	N 43° 22' 20" E143° 12' 30"	④	N 43° 22' 32" E143° 13' 08"
② 基準点	N 43° 23' 55" E143° 11' 50"	⑤	N 43° 24' 44" E143° 11' 17"
③	N 43° 22' 07" E143° 11' 59"		

春採湖

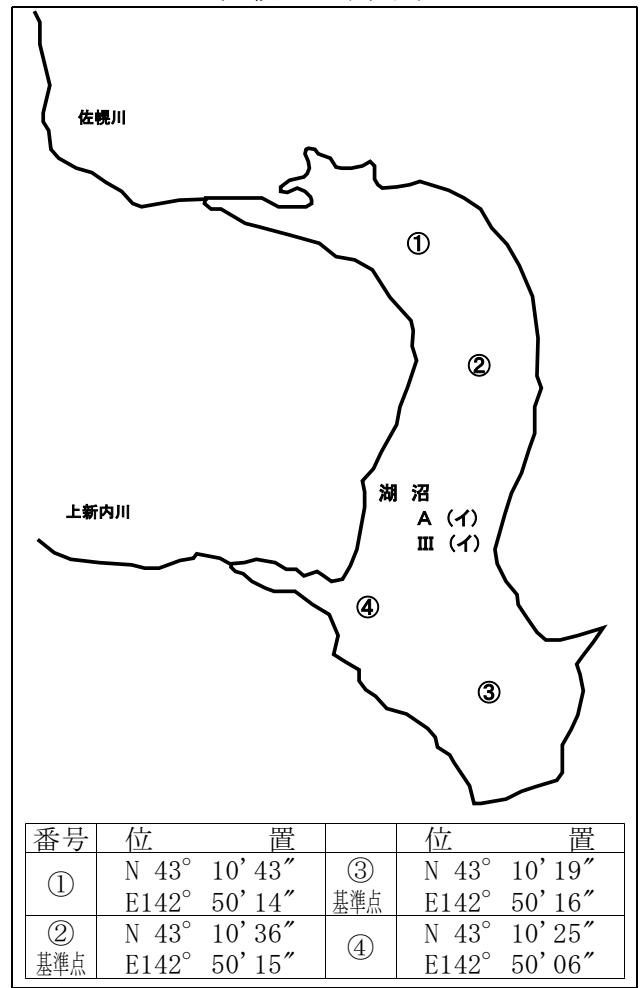


番号	位 置	番号	位 置
① 基準点	N 42° 58' 22" E144° 23' 57"	④	N 42° 58' 25" E144° 24' 23"
② 基準点	N 42° 58' 34" E144° 24' 30"	春採排 水流入 点(新)	N 42° 58' 33" E144° 25' 30"
③	N 42° 58' 17" E144° 23' 48"		

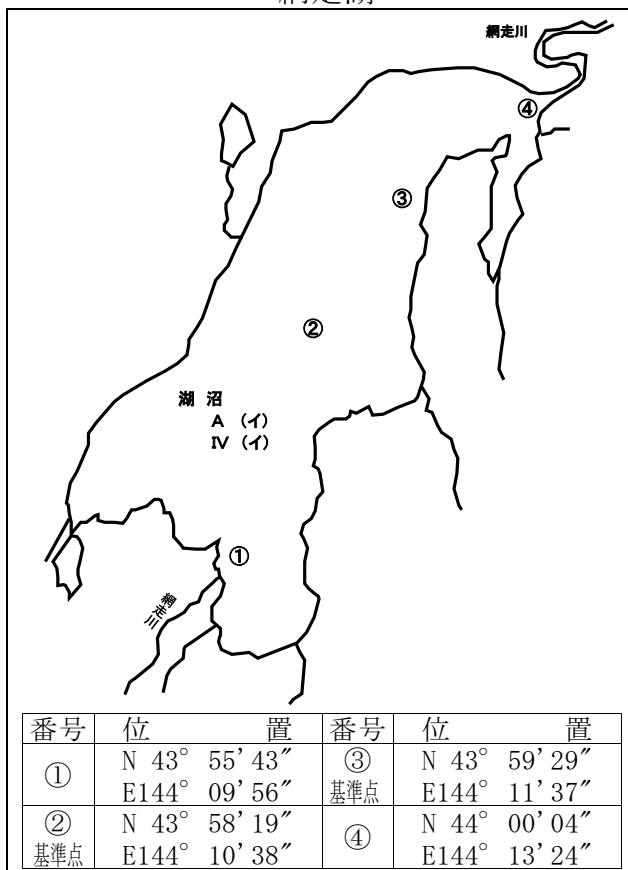
倶多楽湖



佐幌ダム貯水池



網走湖

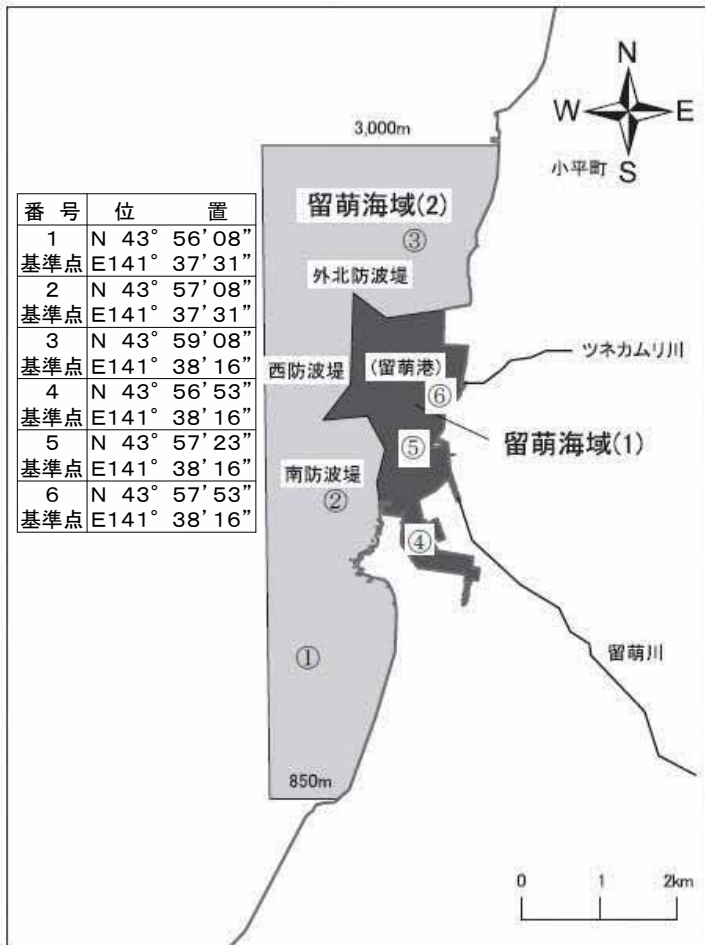


北海道海域の水質測定地点・環境基準類型指定概況図

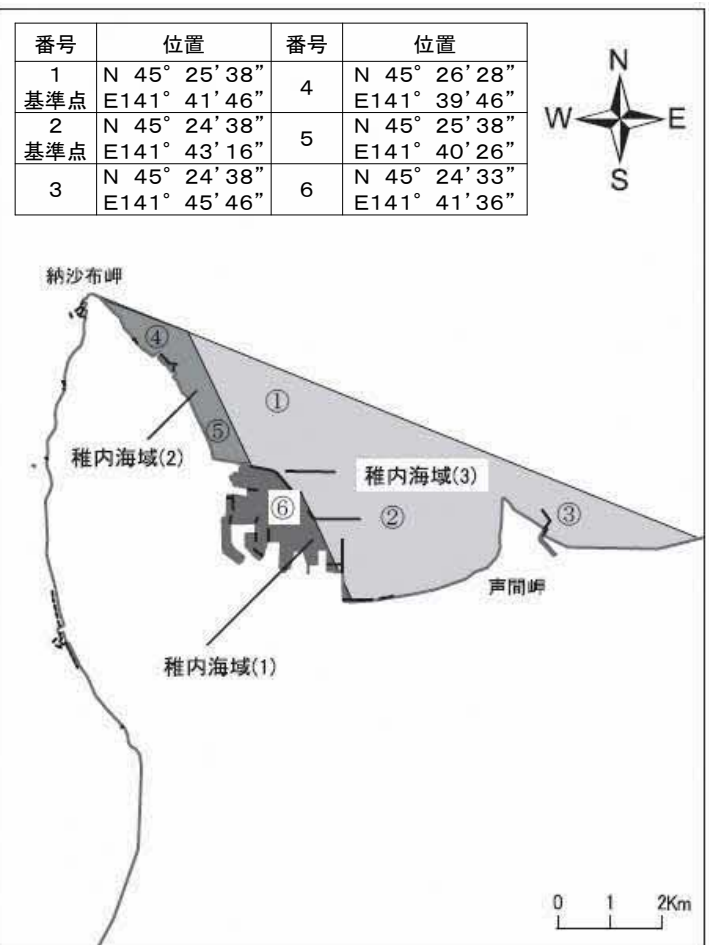
小樽海域



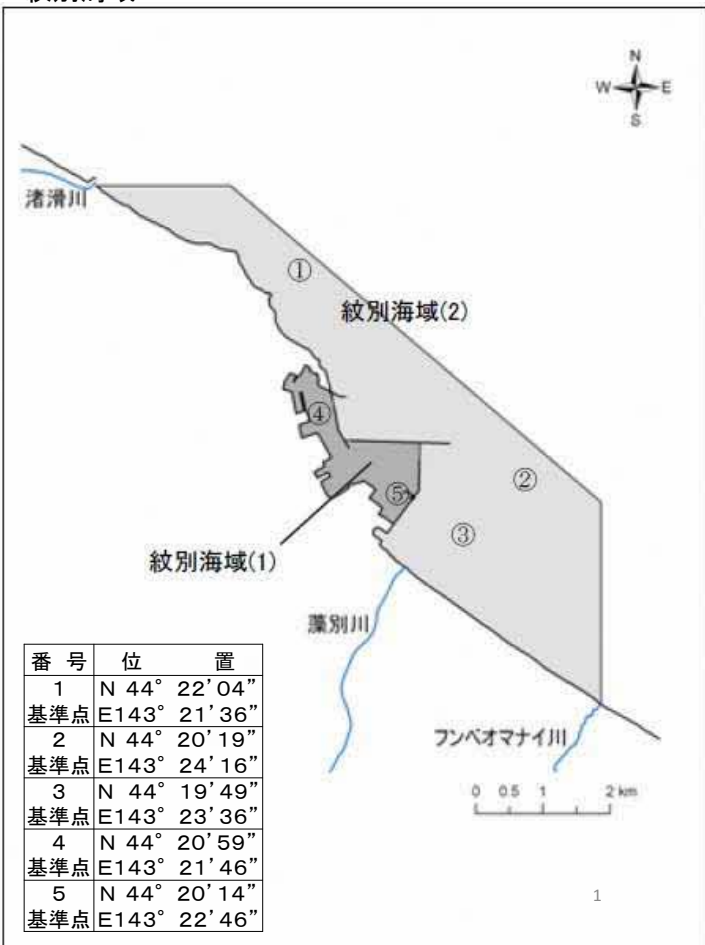
留萌海域



稚内海域

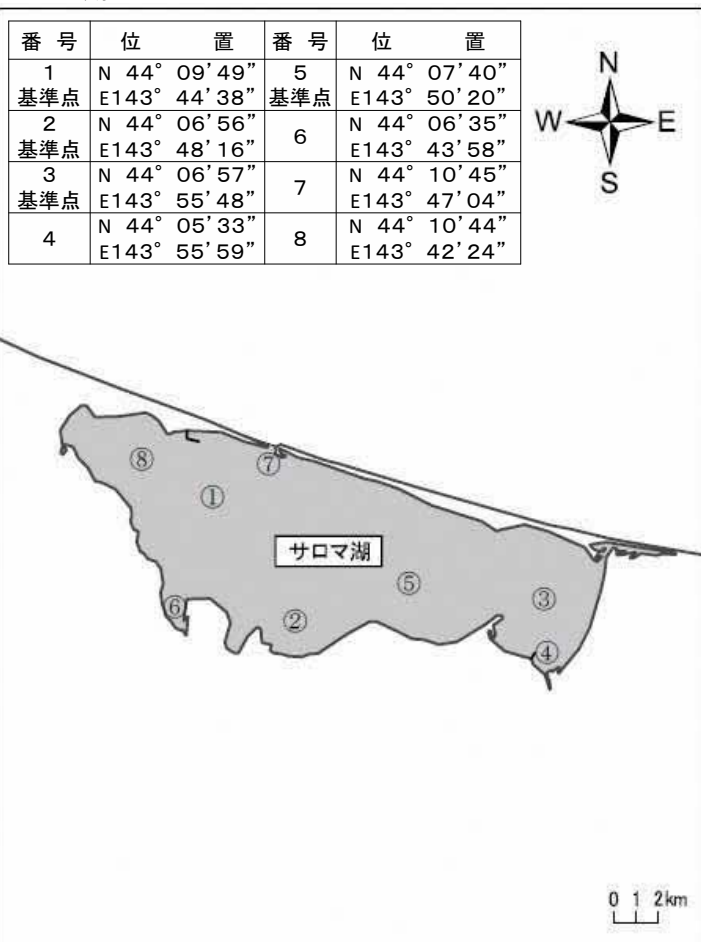


紋別海域

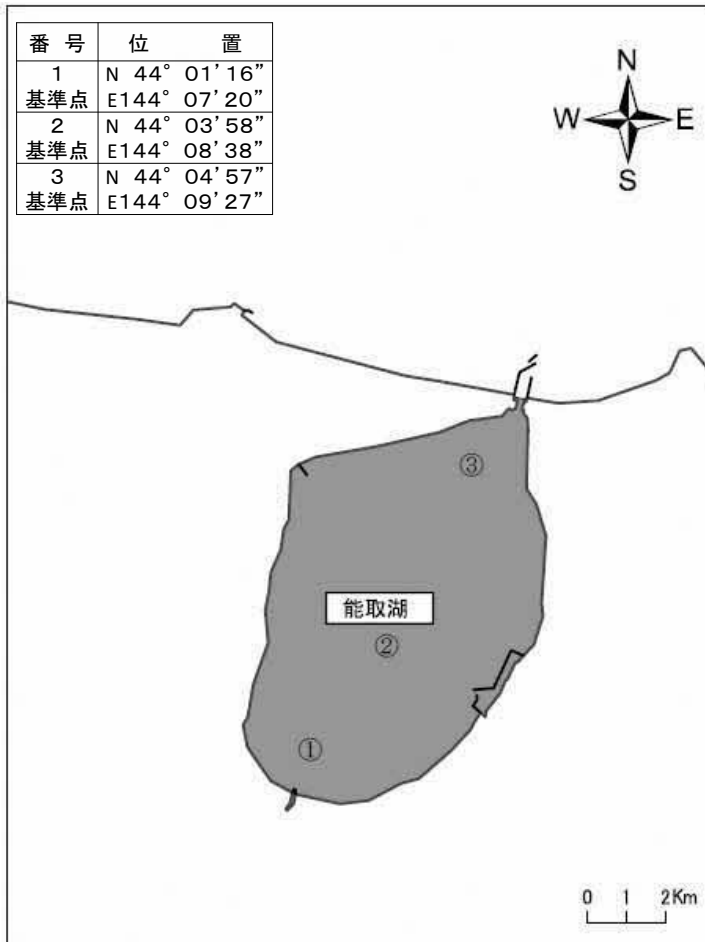


凡例 類型A 類型B 類型C

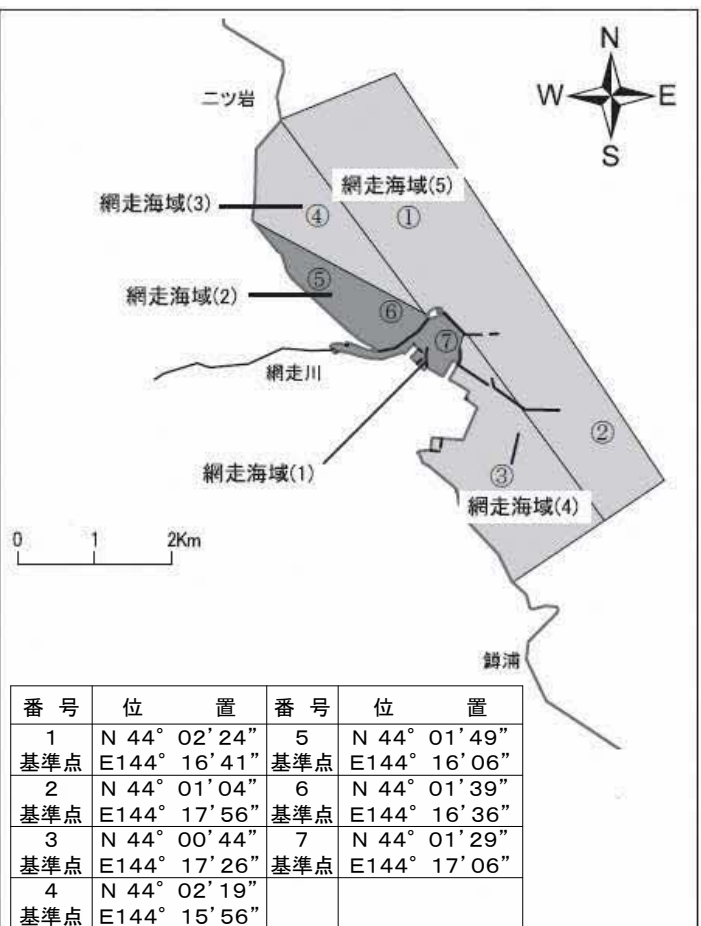
サロマ湖



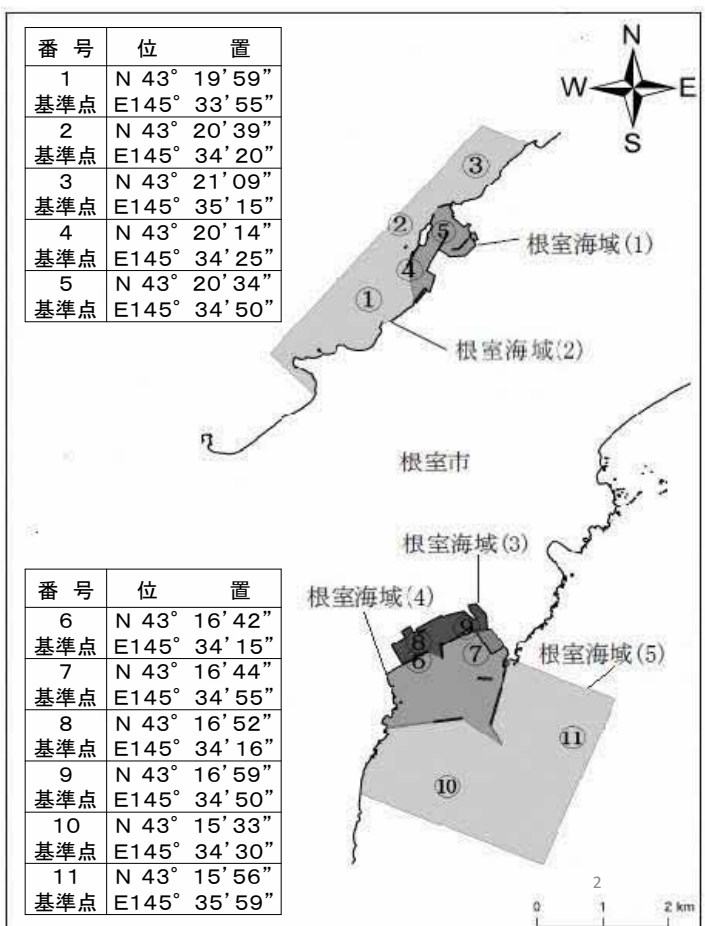
能取湖



網走海域



根室海域



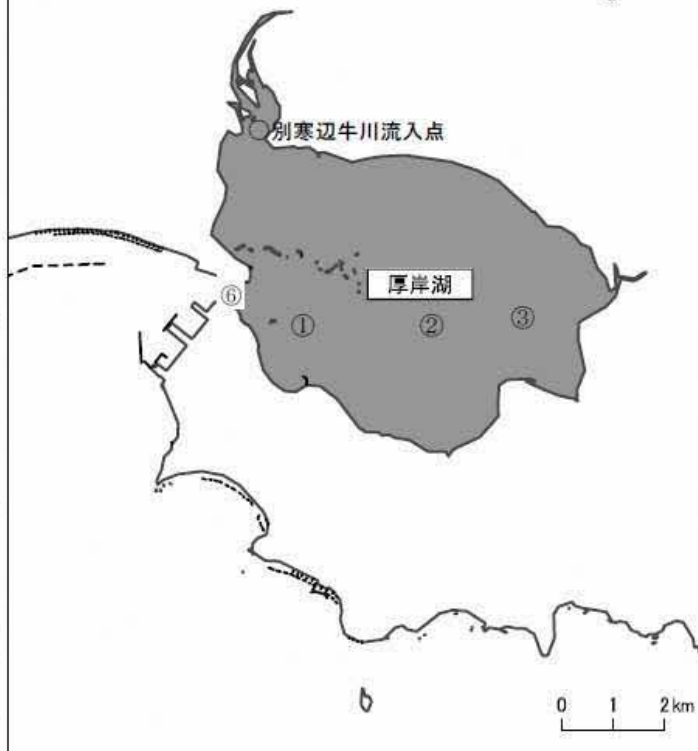
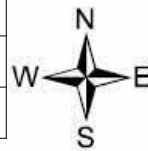
風蓮湖

番号	位置
1	N 43° 20' 15"
基準点	E145° 16' 47"
2	N 43° 16' 54"
基準点	E145° 22' 35"
3	N 43° 19' 33"
	E145° 15' 03"

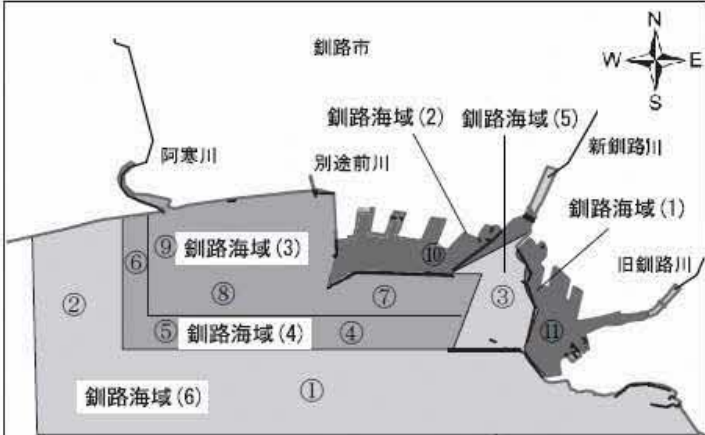


厚岸湖

番号	位置	番号	位置
1	N 43° 02' 25"	3	N 43° 02' 20"
基準点	E144° 52' 29"	基準点	E144° 55' 30"
2	N 43° 02' 25"	6	N 43° 02' 51"
基準点	E144° 52' 29"	基準点	E144° 51' 04"



釧路海域

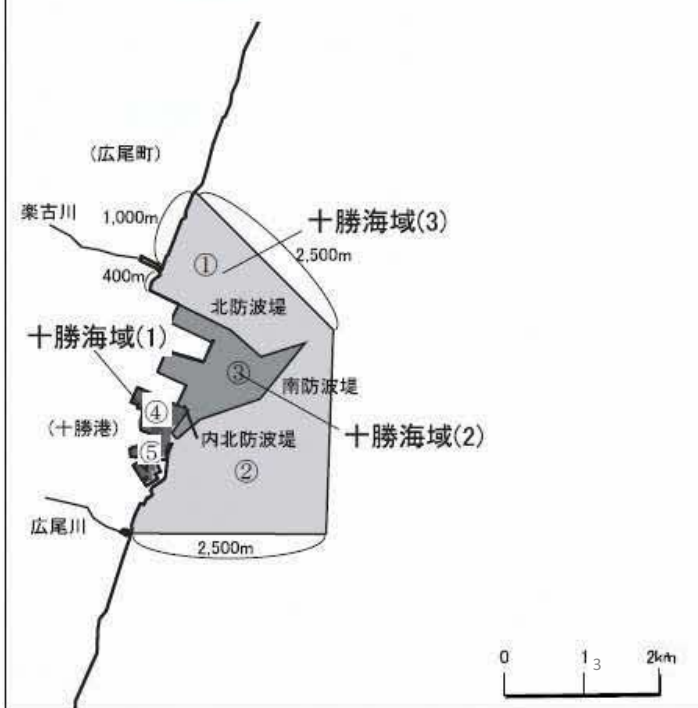


番号	位置	番号	位置
1	N 42° 58' 19"	7	N 42° 58' 59"
基準点	E144° 18' 46"	基準点	E144° 18' 46"
2	N 42° 59' 09"	8	N 42° 59' 09"
基準点	E144° 14' 46"	基準点	E144° 17' 26"
3	N 42° 58' 59"	9	N 42° 59' 39"
基準点	E144° 21' 06"	基準点	E144° 16' 46"
4	N 42° 58' 34"	10	N 42° 59' 39"
基準点	E144° 18' 46"	基準点	E144° 20' 11"
5	N 42° 58' 34"	11	N 42° 58' 44"
基準点	E144° 16' 46"	基準点	E144° 21' 56"
6	N 42° 59' 29"		
基準点	E144° 16' 11"		

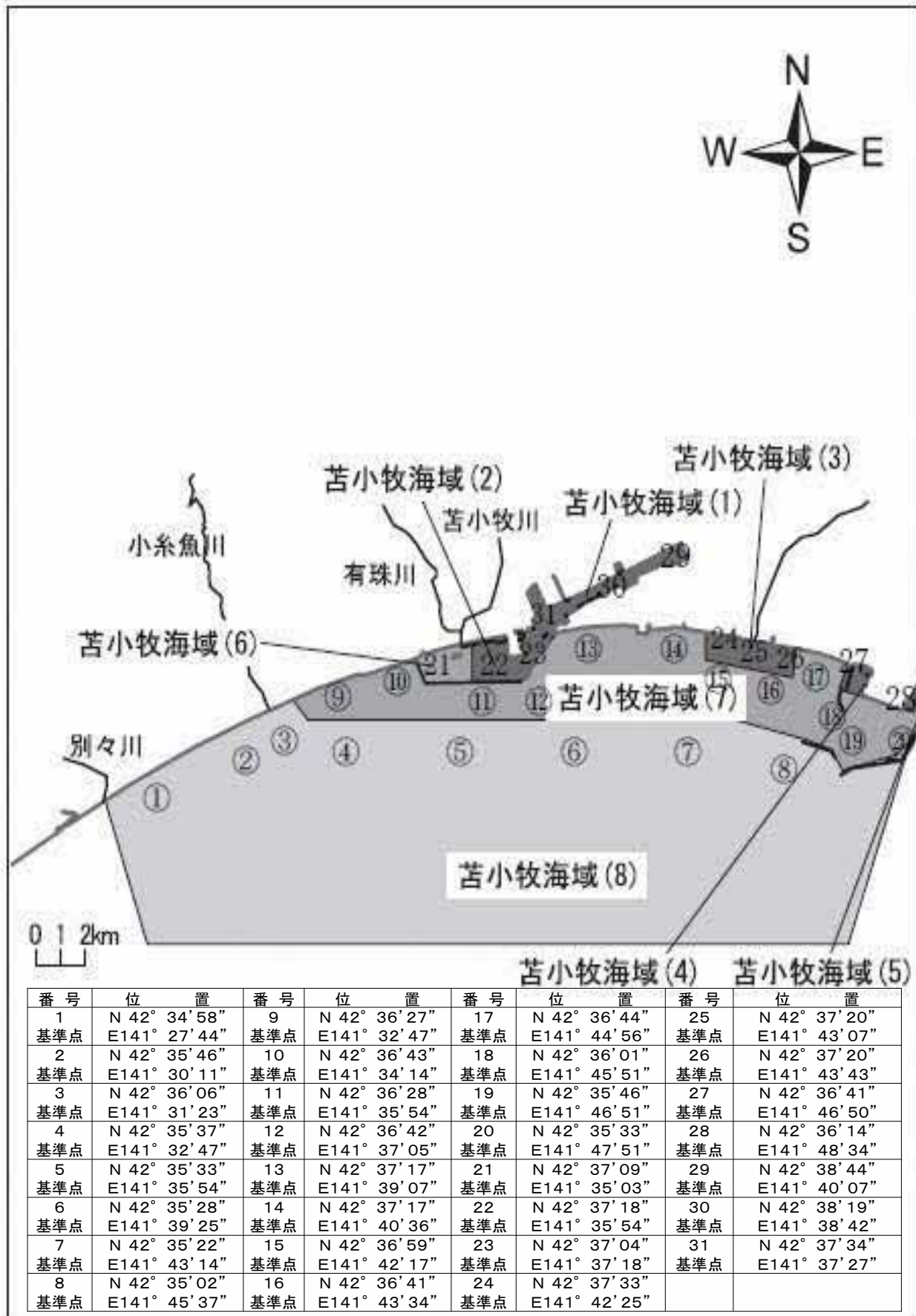


十勝海域

番号	位置	番号	位置
1	N 42° 18' 39"	4	N 42° 17' 39"
基準点	E143° 20' 01"	基準点	E143° 19' 16"
2	N 42° 17' 09"	5	N 42° 17' 24"
基準点	E143° 20' 01"	基準点	E143° 19' 16"
3	N 42° 17' 54"		
基準点	E143° 20' 01"		

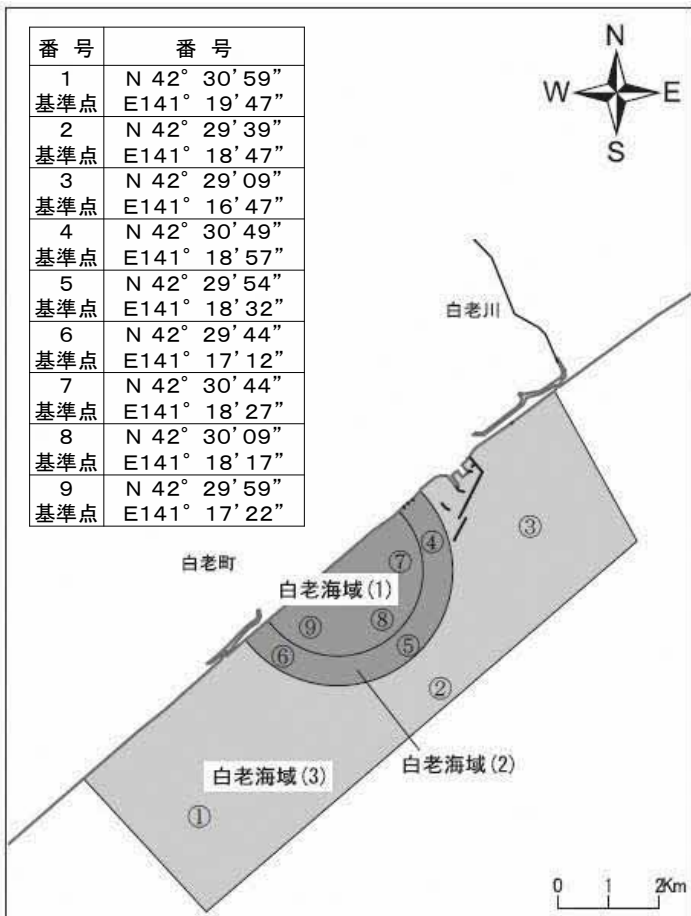


苫小牧海域

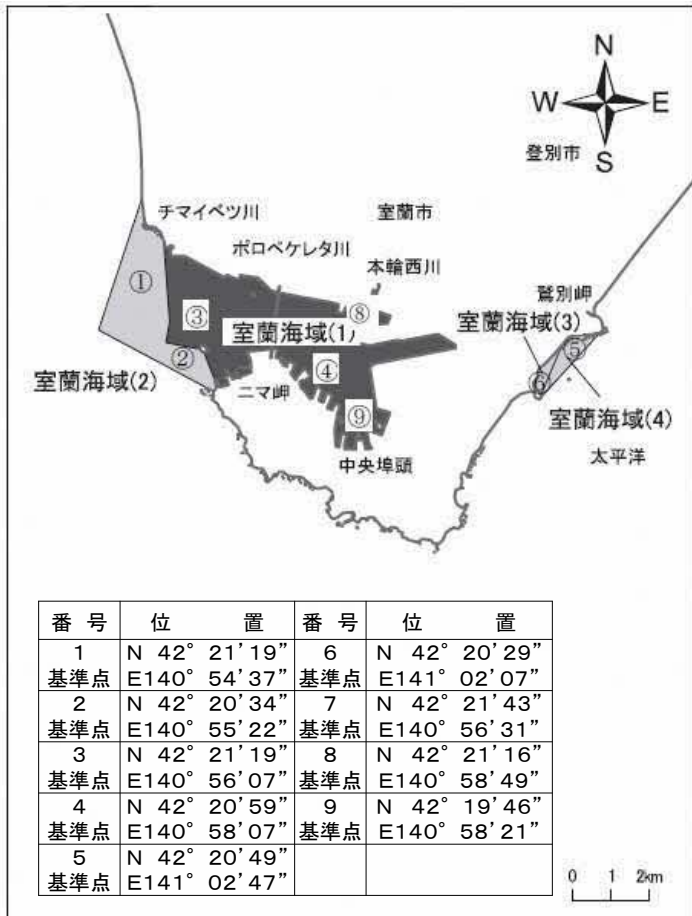


北海道海域の水質測定地点・環境基準類型指定概況図

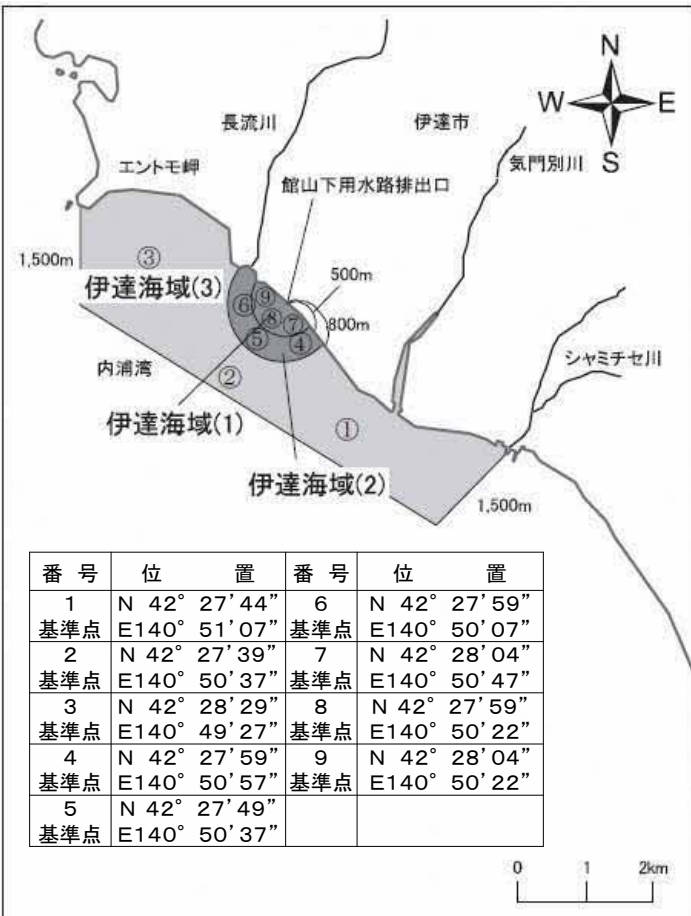
白老海域



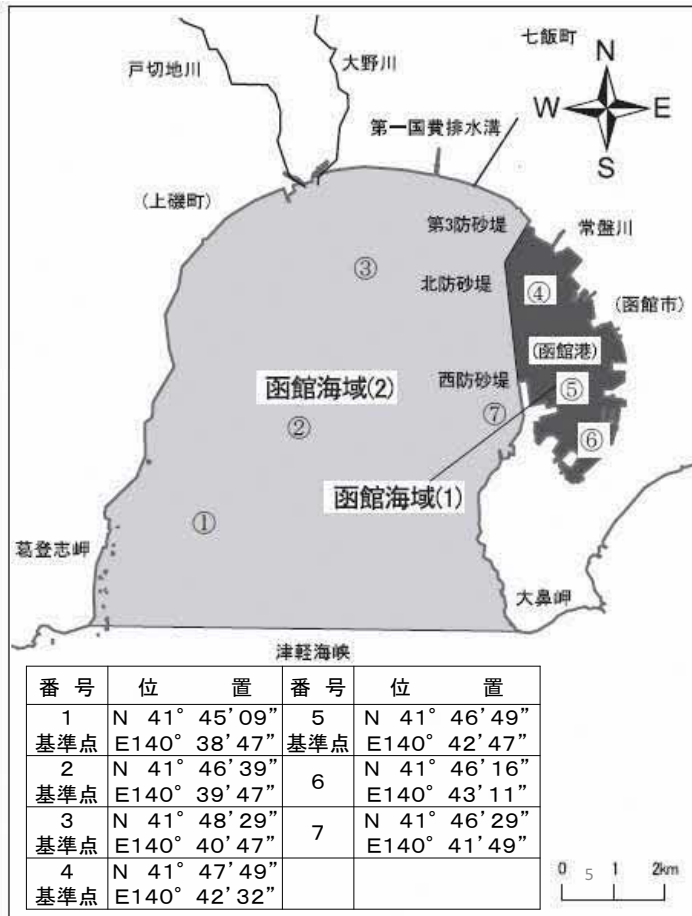
室蘭海域



伊達海域



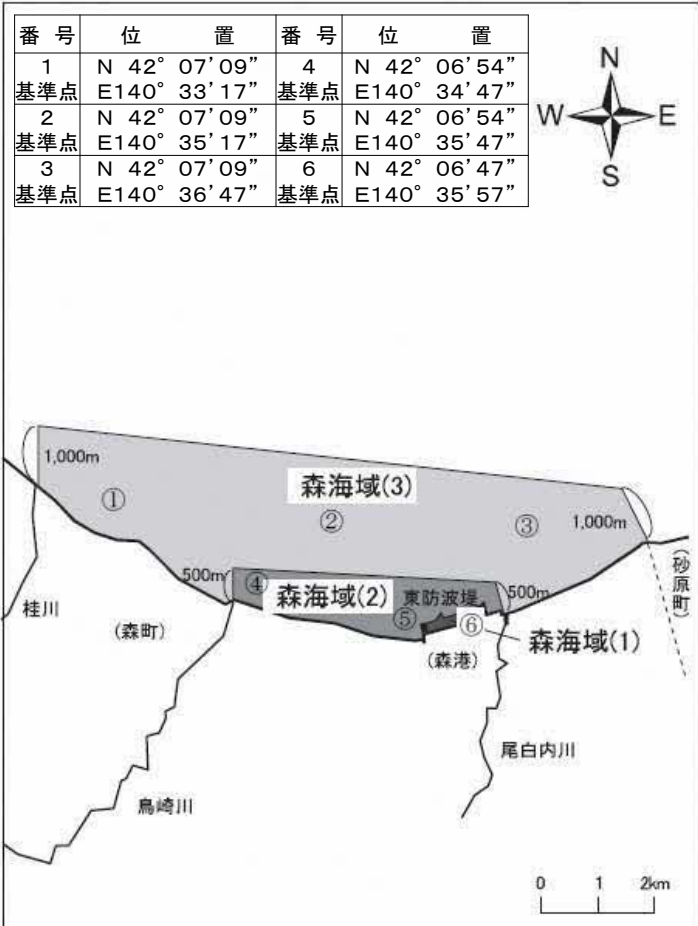
函館海域



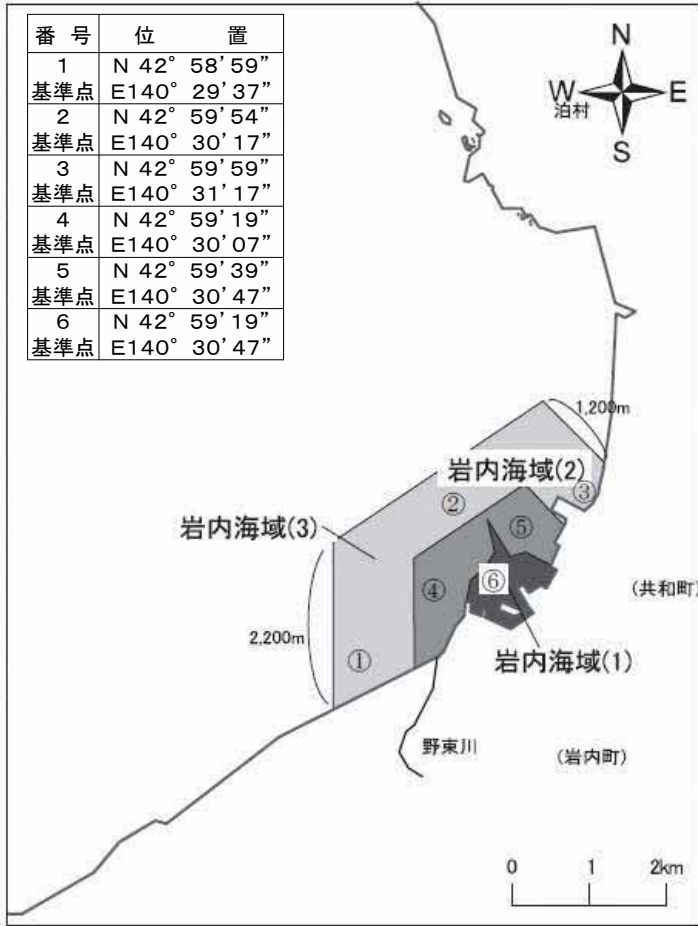
凡例 類型A 類型B 類型C

北海道海域の水質測定地点・環境基準類型指定概況図

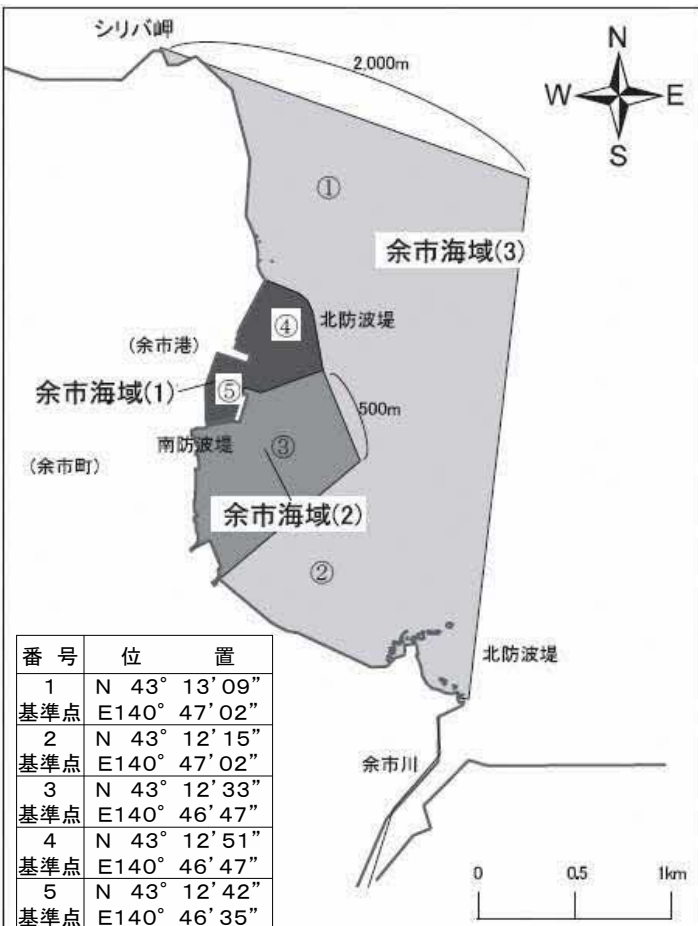
森海域



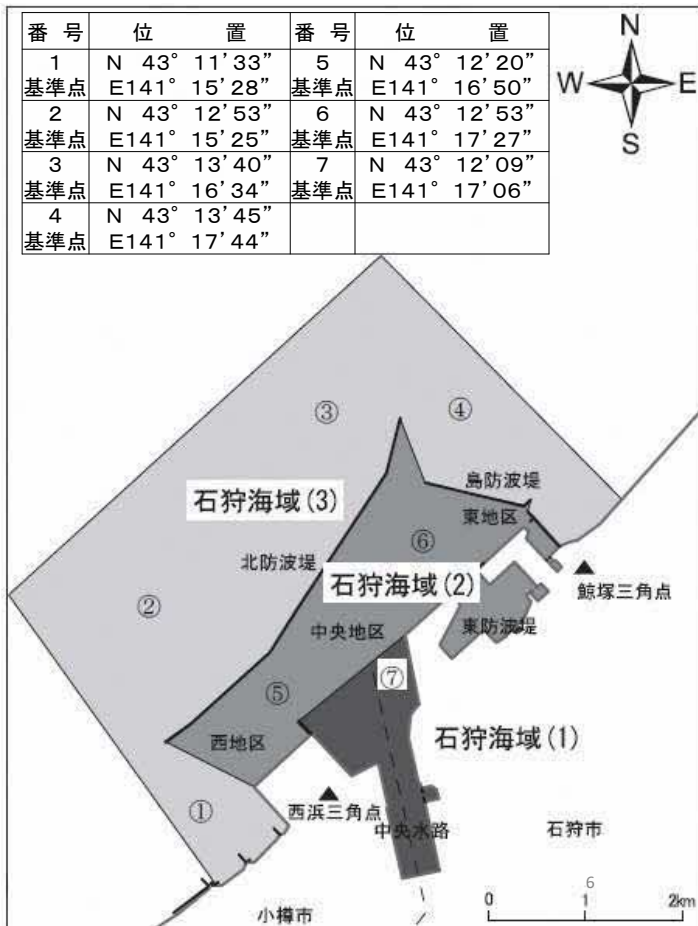
岩内海域



余市海域



石狩海域



凡例 〇 類型A ■ 類型B ■ 類型C

(11)水質汚濁に係る環境基準について(抜粋)

昭和46年12月28日
環境庁告示第59号

改正 昭49環告63・昭50環告3・昭57環告41・環告140・昭60環告29・昭61環告1・
平3環告78・平5環告16・環告65・平7環告17・平10環告15・平11環告14・
平12環告22・平15環告123・平20環告40・平21環告78・平23環告94・
平24環告84・平24環告127・平25環告30・平26環告39・平26環告126・
平28環告37・平31環告46

公害対策基本法（昭和42年法律第132号）第9条の規定に基づく水質汚濁に係る環境基準を次のとおり告示する。

環境基本法（平成5年法律第91号）第16条による公共用水域の水質汚濁に係る環境上の条件につき人の健康を保護し及び生活環境（同法第2条第3項で規定するものをいう。以下同じ。）を保全するうえで維持することが望ましい基準（以下「環境基準」という。）は、次のとおりとする。

第1 環境基準

公共用水域の水質汚濁に係る環境基準は、人の健康の保護および生活環境の保全に関し、それぞれ次のとおりとする。

1 人の健康の保護に関する環境基準

人の健康の保護に関する環境基準は、全公共用水域につき、別表1の項目の欄に掲げる項目ごとに、同表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

2 生活環境の保全に関する環境基準

(1) 生活環境の保全に関する環境基準は、各公共用水域につき、別表2の水
域類型の欄に掲げる水域類型のうち当該公共用水域が該当する水域類型ご
とに、同表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

(2) 水域類型の指定を行うに当たっては、次に掲げる事項によること。

ア 水質汚濁に係る公害が著しくなっており、又は著しくなるおそれのある水域を優先すること。

イ 当該水域における水質汚濁の状況、水質汚濁源の立地状況等を勘案すること。

ウ 当該水域の利用目的及び将来の利用目的に配慮すること。

エ 当該水域の水質が現状よりも少なくとも悪化することを許容することとならないように配慮すること。

オ 目標達成のための施策との関連に留意し、達成期間を設定すること。

公共用水域の水質環境基準

I 人の健康の保護に関する環境基準

項目	基準値	測定方法
カドミウム	0.003mg/L以下	JIS K0102(以下「規格」という。)55.2、55.3又は55.4に定める方法
全シアン	検出されないこと	規格38.1.2(38の備考11を除く。以下同じ。)及び38.2に定める方法、38.1.2及び38.3に定める方法、38.1.2及び38.5に定める方法又は付表1に掲げる方法
鉛	0.01mg/L以下	規格54に定める方法
六価クロム	0.05mg/L以下	規格65.2(65.2.7を除く。)に定める方法(ただし、65.2.6に定める方法により汽水または海水を測定する場合にあっては、JIS K0170-7の7のa)又はb)に定める操作を行うものとする。)
砒素	0.01mg/L以下	規格61.2、61.3又は61.4に定める方法
総水銀	0.0005mg/L以下	付表2に掲げる方法
アルキル水銀	検出されないこと	付表3に掲げる方法
PCB	検出されないこと	付表4に掲げる方法
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
四塩化炭素	0.002mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
トリクロロエチレン	0.01mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法
チウラム	0.006mg/L以下	付表5に掲げる方法
シマジン	0.003mg/L以下	付表6の第1又は第2に掲げる方法
チオベンカルブ	0.02mg/L以下	付表6の第1又は第2に掲げる方法
ベンゼン	0.01mg/L以下	JIS K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
セレン	0.01mg/L以下	規格67.2、67.3又は67.4に定める方法
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下	硝酸性窒素にあつては規格43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6に定める方法、亜硝酸性窒素にあつては規格43.1に定める方法
ふっ素	0.8mg/L以下	規格34.1(34の備考1を除く。)若しくは34.4(妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあっては、蒸留試薬溶液として、水約200mlに硫酸10ml、りん酸60ml及び塩化ナトリウム10gを溶かした溶液とグリセリン250mlを混合し、水を加えて1,000mlとしたものを用い、JIS K0170-6の6 図2 注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。)に定める方法又は34.1.1c)(注(2)第三文及び34の備考1を除く。)に定める方法(懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあっては、これを省略することができる。)及び付表7に掲げる方法
ほう素	1mg/L以下	規格47.1、47.3又は47.4に定める方法
1,4-ジオキサソ	0.05mg/L以下	付表8に掲げる方法

備考

- 1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
- 2 「検出されないこと」とは、測定方法の項に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。別表2において同じ。
- 3 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。
- 4 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。

II 生活環境の保全に関する環境基準

1 河川

(1) 河川 (湖沼を除く。)

ア

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値					該当水域
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 自然環境保全 及びA以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	50 MPN/ 100mL以下	第1の2の (2)により 水域類型ご とに指定す る水域
A	水道2級 水産1級 水浴 及びB以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000 MPN/ 100mL以下	
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000 MPN/ 100mL以下	
C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
D	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に掲 げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以下	2mg/L以上	—	
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/L以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと。	2mg/L以上	—	
測定方法		規格12.1に定 める方法又はガ ラス電極を用い る水質自動監視 測定装置により これと同程度の 計測結果の得ら れる方法	規格21に定める 方法	付表9に掲げる 方法	規格32に定める 方法又は隔膜電 極を用いる水質 自動監視測定装 置によりこれと 同程度の計測結 果の得られる方 法	最確数による 定量法	

備考

- 1 基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 2 農業利用水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L 以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。
- 3 水質自動監視測定装置とは、当該項目について自動的に計測ができる装置であって、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 4 最確数による定量法とは、次のものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
 試料10mL、1mL、0.1mL、0.01mL/……のように連続した4段階（試料量が0.1mL以下の場合は1mLに希釈して用いる。）を5本ずつBGLB酔管に移し、35～37℃、48±3時間培養する。ガス発生を認めたものを大腸菌群陽性管とし、各試料量における陽性管数を求め、これから100mL中の最確数を最確数表を用いて算出する。この際、試料はその最大量を移植したものの全部か、又は大多数が大腸菌群陽性となるように、また最小量を移植したものの全部か又は大多数が大腸菌群陰性となるように適当に希釈して用いる。
 なお、試料採取後、直ちに試験ができない時は、冷蔵して数時間以内に試験する。

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道3級：前処理を伴う高度の浄水操作を行うもの
 - 3 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 水産3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 - 4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの
 - 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全 垂 鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩	
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下	第1の2の(2)により水域類型ごとに指定する水域
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下	
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下	
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下	
測定方法		規格53に定める方法	付表11に掲げる方法	付表12に掲げる方法	
備考 基準値は年間平均値とする。					

(2) 湖 沼 (天然湖沼及び貯水量1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日以上である人工湖)

ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当水域
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要 求 量 (COD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 水産1級 自然環境保全 及びA以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L以下	1mg/L以下	7.5mg/L以上	50 MPN/ 100mL以下	第1の2の (2)により水 域類型ごと に指定する水 域
A	水道2、3級 水産2級 水浴 及びB以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	5mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000 MPN/ 100mL以下	
B	水産3級 工業用水1級 農業用水 及びCの欄に掲げ るもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	15mg/L以下	5mg/L以上	—	
C	工業用水2級 環境保全	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	ごみ等の浮遊 が認められな いこと。	2mg/L以上	—	
測 定 方 法		規格12.1に定 める方法又は ガラス電極を 用いる水質自 動監視測定装 置によりこれ と同程度の計 測結果の得ら れる方法	規格17に定める方 法	付表9に掲げる 方法	規格32に定め る方法又は隔 膜電極若しく は光学式セン サを用いる水 質自動監視測 定装置により これと同程度 の計測結果の 得られる方法	最確数によ る定量法	
備 考 水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。							

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2、3級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産1級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 水産3級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
 4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全磷	
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの	0.1mg/L以下	0.005mg/L以下	第1の2の (2)により水域 類型ごとに 指定する水域
II	水道1、2、3級(特殊なものを除く) 水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/L以下	0.01mg/L以下	
III	水道3級(特殊なもの)及びIV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/L以下	0.03mg/L以下	
IV	水産2種及びVの欄に掲げるもの	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下	
V	水産3種 工業用水 農業用水 環境保全	1mg/L以下	0.1mg/L以下	
測定方法		規格45.2、45.3、45.4又は45.6(45の備考3を除く。)に定める方法	規格46.3(46の備考9を除く。)に定める方法	
備考 1 基準値は、年間平均値とする。 2 水域類型指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。 3 農業用水については、全磷の項目の基準値は適用しない。				

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道3級：前処理を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
 3 水産1種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
 水産2種：ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
 水産3種：コイ、フナ等の水産生物用
 4 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

ウ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩	
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下	第1の2の (2)により水域 類型ごとに 指定する水域
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下	
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下	
生物特B	生物A生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下	
測定方法		規格53に定める方法	付表11に掲げる方法	付表12に掲げる方法	
備考 基準値は年間平均値とする。					

2 海 域
ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当水域
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素 要 求 量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	n-ヘキサン 抽出物質 (油分等)	
A	水産1級 水浴 自然環境保全 及びB以下の欄に 掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000 MPN/ 100mL以下	検出されな いこと。	第1の2の (2)により水 域類型ごと に指定する水域
B	水産2級 工業用水 及びCの欄に掲げ るもの	7.8以上 8.3以下	3mg/L以下	5mg/L以上	—	検出されな いこと。	
C	環 境 保 全	7.0以上 8.3以下	8mg/L以下	2mg/L以上	—	—	
測 定 方 法		規格12.1に定める 方法又はガラス電 極を用いる水質自 動監視測定装置に よりこれと同程度 の計測結果の得ら れる方法	規格17に定める 方法 (ただし、 B類型の工業用 水及び水産2級 のうちノリ養殖 の利水点におけ る測定方法は、 アルカリ性法)	規格32に定める 方法又は隔膜電 極若しくは光学 式センサを用い る水質自動監視 測定装置により これと同程度の 計測結果の得ら れる方法	最確数による 定量法	付表14に掲げ る方法	
<p>備 考</p> <p>1 水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数の70MPN/100mL以下とする。</p> <p>2 アルカリ性法とは、次のものをいう。</p> <p>試料50mLを正確に三角フラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液(10w/v%)1mLを加え、次に過マンガン酸カリウム溶液(2mmol/L)10mLを正確に加えたのち、沸騰した水浴中に正確に20分放置する。その後よう化カリウム溶液(10w/v%)1mLとアジ化ナトリウム溶液(4w/v%)1滴を加え、冷却後、硫酸(2+1)0.5mLを加えてよう素を遊離させて、それを力価の判明しているチオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/L)ででんぷん溶液を指示薬として滴定する。同時に試料の代わりに蒸留水を用い、同様に処理した空試験値を求め、次式によりCOD値を計算する。</p> $\text{COD (O}_2\text{mg/L)} = 0.08 \times [(b) - (a)] \times f \text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3 \times 1000/50$ <p>(a) : チオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/L)の測定値 (mL) (b) : 蒸留水について行った空試験値 (mL) f Na₂S₂O₃ : チオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/L)の力価</p>							

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
2 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用
水産2級：ボラ、ノリ等の水産生物用
3 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全磷	
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの (水産2種及び水産3種を除く。)	0.2mg/L以下	0.02mg/L以下	第1の2の (2)により 水域類型ご とに指定す る水域
Ⅱ	水産1種 水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの (水産2種及び水産3種を除く。)	0.3mg/L以下	0.03mg/L以下	
Ⅲ	水産2種及びⅣ以下の欄に掲げるもの (水産3種を除く。)	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下	
Ⅳ	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/L以下	0.09mg/L以下	
測定方法		規格45.2、45.3、45.4又 は45.6(45の備考3を除 く。)に定める方法	規格46.3(46の備考9を 除く。)に定める方法	
備考 1 基準値は、年間平均値とする。 2 水域類型指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。				

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水産1種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される
 水産2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される。
 水産3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される
 3 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

ウ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全垂鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩	
生物 A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L以下	0.001mg/L以下	0.01mg/L以下	第1の2の (2)により 水域類型ご とに指定す る水域
生物 特A	生物Aの水域のうち、水生生物の 産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育 場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L以下	0.0007mg/L以下	0.006mg/L以下	
測定方法		規格53に定める方法	付表11に掲げる 方法	付表12に掲げる 方法	
備考 基準値は年間平均値とする。					